α-807si

使用説明書

ご使用前に本書を
よくお読みください。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。ご使用前に、この使用説明書をよくお読みください。

この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発熱注意）

⚠警告

●指定された電池以外は使わないでください。
●電池の極性（＋／−）を逆に入れないでください。
●火中への投入や充電、ショート、分解、加熱をしないでください。
電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住まいの自治体の規則にしたがって正しく廃棄するかリサイクルしてください。

製品および電池や付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児が電池を飲み込む等、事故の恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

⚠警告

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター･サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

ファインダーを通して直接太陽を見ないでください。
失明の恐れがあります。

⚠注意

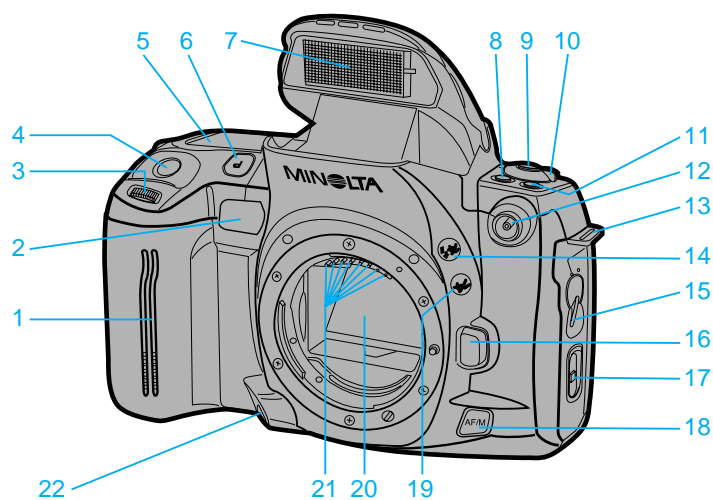
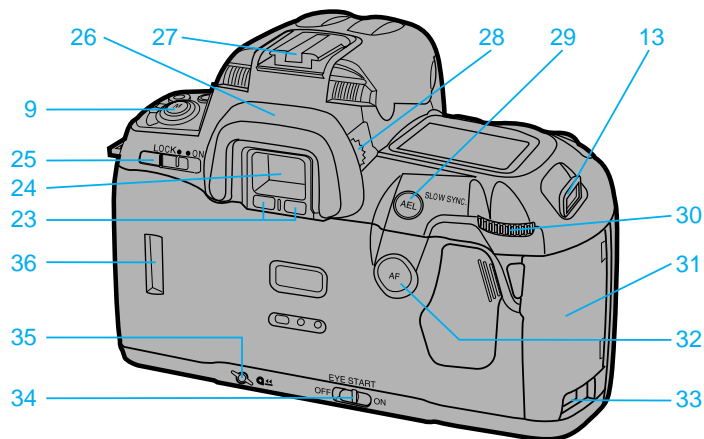
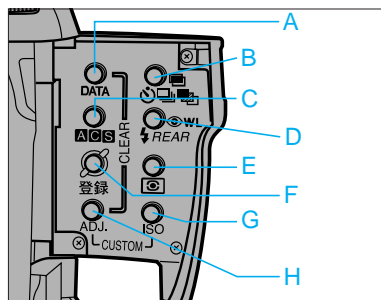
直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くのものに結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを取り付けてください。

このカメラには、当社のボディ特性に適合するように設計された当社製のレンズおよびアクセサリーの使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能や、それによって生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

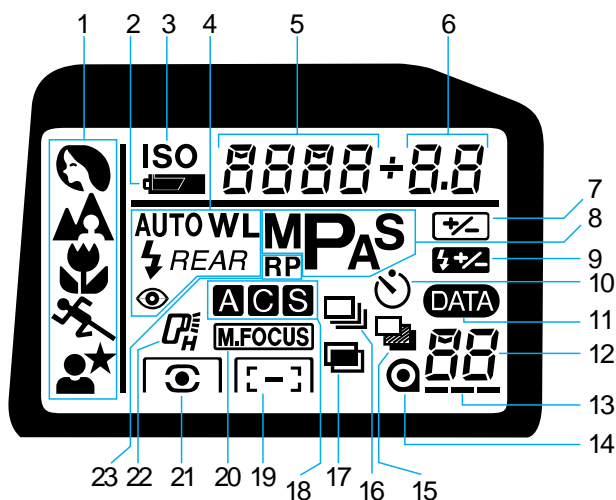
目次

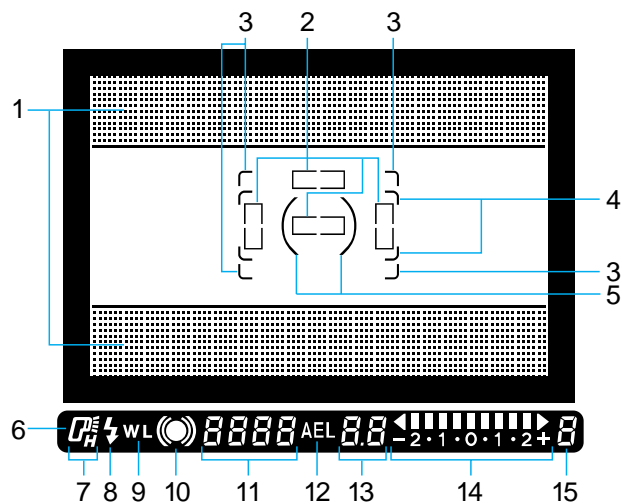
各部の名称　（　）内は参照ページの番号です。

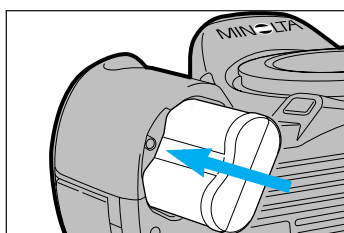
*印のついたところは、直接手などで触れないよう気を付けてください。

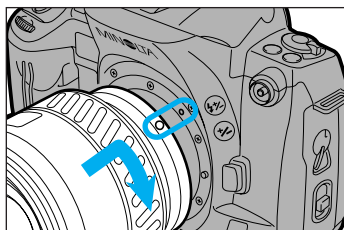
＜ボディ＞

1. グリップセンサー(20)
2. AF補助光発光部/セルフタイマーランプ(32、120)
3. 前ダイヤル
4. シャッターボタン
5. ボディ表示部(6)
6. プログラムセットボタン(123)
7. 内蔵フラッシュ(33〜38)
8. 撮影シーン選択ボタン(39〜46)
9. 登録呼び出しボタン(101)
10. 登録番号選択レバー(100)
11. 露出モードボタン(49)
12. シンクロターミナル(97)
13. ストラップ取り付け部(11)
14. フラッシュ調光補正ボタン(86、91)
15. パノラマ切り替えレバー(116)
16. レンズ取り外しボタン(15)
17. 裏ぶた開放レバー(16)
18. フォーカスモード(AF/M)ボタン(31)
19. 露出補正ボタン(74)
20. ミラー *
21. AFレンズ信号接点 *
22. プレビュー(絞り込み)ボタン(118)

23. アイセンサー＊（20）
24. ファインダー＊
25. メインスイッチ（13、19）
26. アイピースカップ（11）
27. オートロックアクセサリーシュー
28. 視度調整ダイヤル（19）
29. AEロックボタン（75、76、88、95）
30. 後ダイヤル
31. グリップドア
32. AFフレーム選択ボタン（28、67～69）
33. リモートレリーズターミナル（61）
34. アイスタートスイッチ（21）
35. 途中巻き戻しボタン（24）
36. フィルム確認窓（16）

A. 撮影データメモリーボタン（108～113）
B. セルフタイマー/巻き上げモードボタン（77～83、120、121）
C. AFモード選択ボタン（65）
D. フラッシュモード選択ボタン（38、89、93）
E. 測光方式選択ボタン（73）
F. 登録ボタン（100）
G. フィルム感度設定ボタン（119）
H. アジャストボタン（78、81、104、110～113）

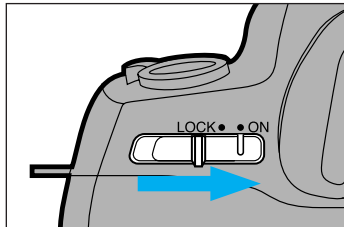
各部の名称

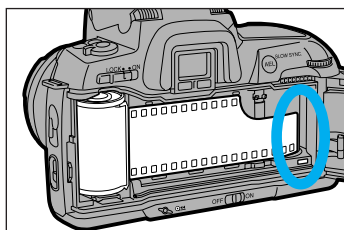
＜ボディ表示部＞ 下図は、説明のためすべての表示を点灯させています。

1. 撮影シーンセレクター表示
2. 電池容量表示
3. フィルム感度表示
4. フラッシュモード表示
5. シャッター速度／フィルム感度／フォーカスフレーム表示
6. 絞り値／露出補正値／フラッシュ調光補正値／ブラケット段数表示
7. 露出補正表示
8. 露出モード表示
9. フラッシュ調光補正表示
10. セルフタイマー表示
11. 撮影データメモリー表示
12. フィルムカウンター
13. フィルム送り表示
14. フィルム表示
15. ブラケット（露出ずらし）表示
16. 1コマ／連続撮影表示
17. 多重露光表示
18. AFモード表示
19. フォーカスフレーム表示
20. マニュアルフォーカス表示
21. 測光方式表示
22. ハイスピードシンクロ表示
23. レリーズ優先表示

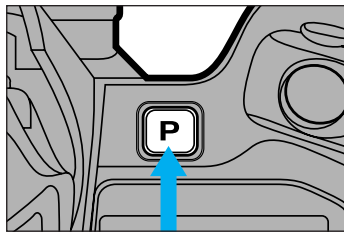
＜ファインダー表示部＞ 説明のためすべての表示を点灯させています。

1. パノラマフレーム
2. ローカルフォーカスフレーム
3. ワイドフォーカスフレーム
（カメラ横位置用）
4. ワイドフォーカスフレーム
（カメラ縦位置用、パノラマ撮影用）
5. スポット測光フレーム
6. フラッシュ撮影表示
7. ハイスピードシンクロ表示
8. フラッシュ充電完了／調光確認表示
9. ワイヤレスフラッシュ表示
10. フォーカス表示
11. シャッター速度／フォーカスフレーム表示
12. AEロック表示
13. 絞り値／露出補正値／フラッシュ調光補正値表示
14. 測光インジケーター
15. フィルム残数表示

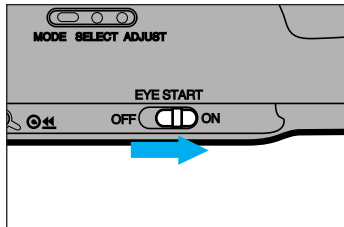
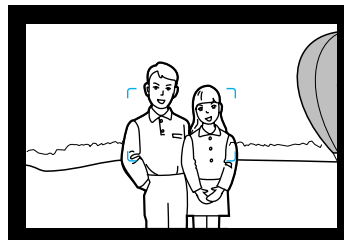
撮影早分かり（詳しくは本文をご覧ください）

1 電池を入れます。

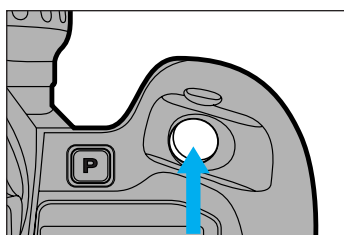
電池（2CR5 1個）を、電池室ふたの表示にしたがって入れます。

2 レンズを取り付けます。

レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

3 電源を入れます。

メインスイッチをONにします。

4 フィルムを入れます。

フィルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。

5 全自動にします。

プログラムセットボタンを押します。

6 アイスタートスイッチをONにします。

7 カメラを構えます。

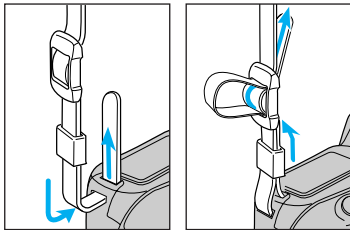
写したいものがフォーカスフレームに入るように、カメラを構えます。自動的にピントが合います。

8 撮影します。

シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

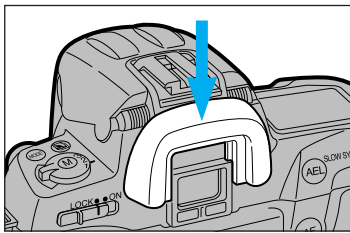
簡単に写せます

この章では、撮影前の準備と、最も簡単な撮影方法を説明しています。初めてカメラをご使用になる方でも、この章をお読みいただければ簡単に撮影できます。

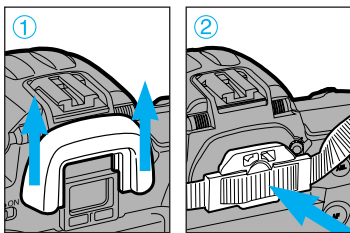
標準付属品を取り付けます

ネックストラップの取り付け方

左図のように取り付けます。

●反対側も同様に取り付けます。

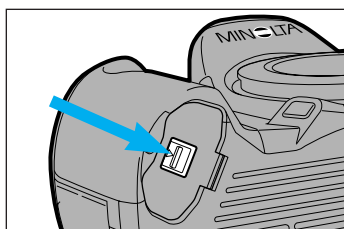
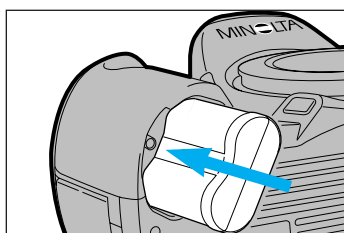
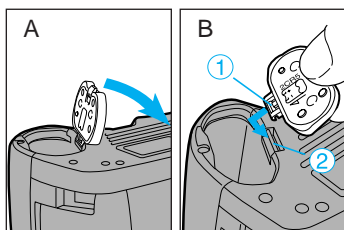
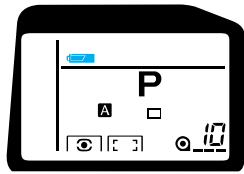
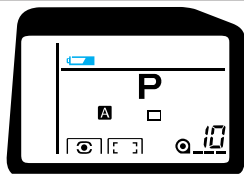
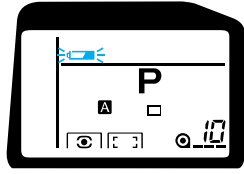
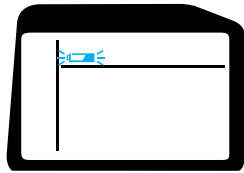
アイピースカップの取り付け方

接眼枠の上から差し込みます。

アイピースキャップの取り付け方

長時間露光（バルブ撮影、61ページ参照）やセルフタイマー撮影（120ページ参照）で、ファインダーから光が入るのを防ぐために使用します。

①アイピースカップを下から押し上げるようにして外し、
②アイピースキャップをはめ込みます。

電池を入れます

6Vパックリチウム電池2CR5を1個使用します。

●カメラの汚れや水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で操作してください。

1 電池室開放レバーを矢印の方向へ押して、電池室のふたを開けます。

2 電池室ふたの＋／－表示にしたがって電池を入れ、カチッと音がするまでふたを閉じます。

縦位置コントロールグリップVC-700を取り付けるときは、電池室のふたを外します。ふたを開け、矢印の方向に軽く押すと外すことができます（図A）。外したふたを元通り取り付けるときは、ふたの溝の部分①を、電池室内の軸②にはめ込むようにします（図B）。

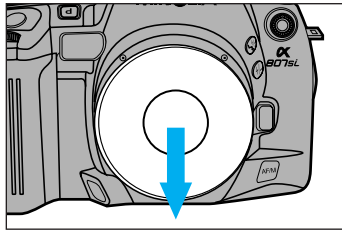
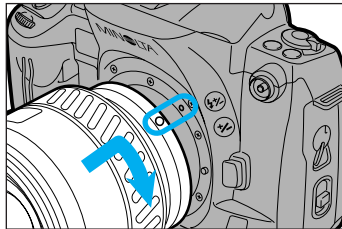
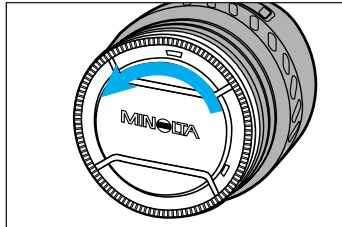
縦位置コントロールグリップVC-700はα-707si専用として発売された別売アクセサリーですが、このカメラにも使用できます。取り付け方や操作方法は、α-707siと組み合わせた場合と同様です。ただし、VC-700のスポットAELボタンの機能は、このカメラのAEロックボタンと同じものになります。

電池容量の確認

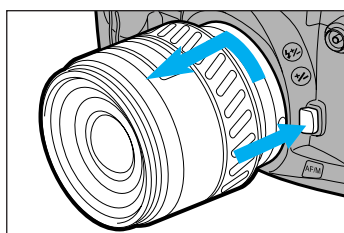
メインスイッチをLOCKからONにすると、自動的に電池の容量がチェックされ、ボディ表示部にその結果を表示します。

表示	説明
	点灯(5秒間) ——電池容量は十分です。
	点灯(5秒間) ——新しい電池を準備することをおすすめします(この状態でも撮影はできます)。
	点滅 ——電池を交換することをおすすめします(この状態でも撮影はできます)。
	のみ点滅(他の表示すべて消灯) ——新しい電池と交換してください(シャッターは切れません)。

●メインスイッチをONにしてもボディ表示部に何も表示されないときは、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。それでも何も表示されないときは電池を交換してください。

レンズの取り付け方

1 カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

2 レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで時計方向に回します。

●レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

レンズの取り外し方

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します。

●**取り外した後は、カメラ側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。**

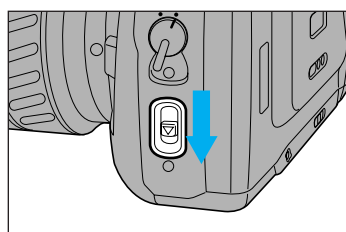
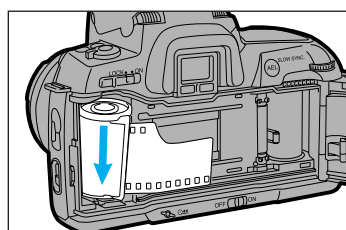
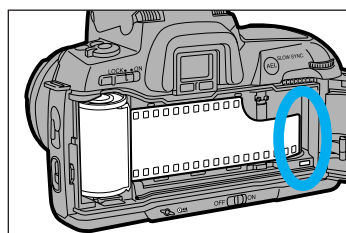
- **カメラの汚れや水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で操作してください。**
- **カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷をつけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気を付けてください。**
- **レンズに無理な力を加えないでください。**

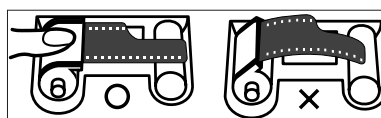
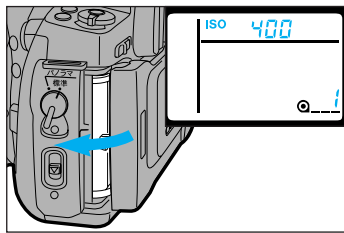
- **フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。レンズフードは、レンズの使用説明書をご覧の上、正しく装着してください。**

フィルムを入れます

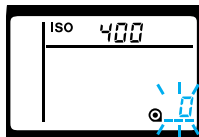
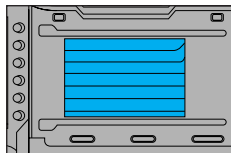
始めてカメラをご使用になるときは、フィルムを入れる前に、裏ぶた内側にある保護シートを取り外してください。

保護シート

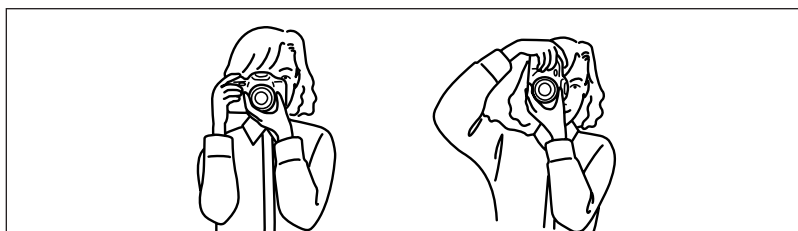
フィルム確認窓でカメラの中にフィルムが入っていないことを確認してから、裏ぶたを開けてください。

1 裏ぶた開放レバーを押し下げて、裏ぶたを開けます。

2 フィルムを図のように入れます。

3 フィルムの先端を赤いマークの範囲内に合わせます。

●フィルムが浮き上がらないようにパトローネ（フィルム容器）を押さえてください。

4 裏ぶたを閉じ、メインスイッチをONにします。

●フィルムが自動的に巻き上げられ、フィルムカウンターに“1”が表示されます。

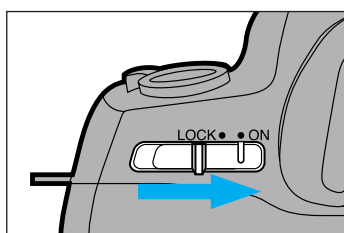
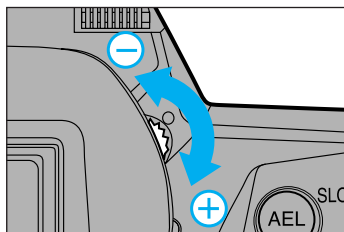
●DXコード付きのフィルムを入れた場合、フィルム感度が自動的に設定され、ボディ表示部に表示されます。

●フィルムが正しく送られていない場合、フィルムカウンターは“0”のまま点滅します。このときは、裏ぶたを開けてフィルムを取り出し、もう一度入れ直してください。

シャッター幕は非常に薄く精巧に作られています。フィルムを入れる際に、手やフィルムの先が絶対に触れないように注意してください。

- フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。
- ポラロイドインスタントリバーサルフィルムは、巻き上げがうまくできませんので、使用しないでください。
- DXコードの付いていないフィルムを入れたとき、このカメラは、
  感度→直前に入れていたフィルムの感度を表示します。
  枚数→36枚撮りと見なします。
  したがって、37コマ以上の手巻きフィルムなどを入れた場合、36枚目を撮影後、自動的に巻き戻しが始まります。

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

- **右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側をもって支えます。**
- **片足を軽く踏み出し、上半身を安定させせます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。**
- **暗い場所でフラッシュを使用しないで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は三脚などにカメラを固定して撮影してください。**
- **別売の縦位置コントロールグリップVC-700やホールディングストラップHS-700を使用すれば、カメラの保持をより確かなものにすることができます。**

ファインダーが見えにくいときは

目の調子によりファインダー内の像がはっきりと見えないときは、ファインダーの視度を調整して見やすくすることができます。

1 メインスイッチをONにし、カメラを構えます。

2 フォーカスフレームが最もはっきり見えるよう、視度調整ダイヤルを回します。

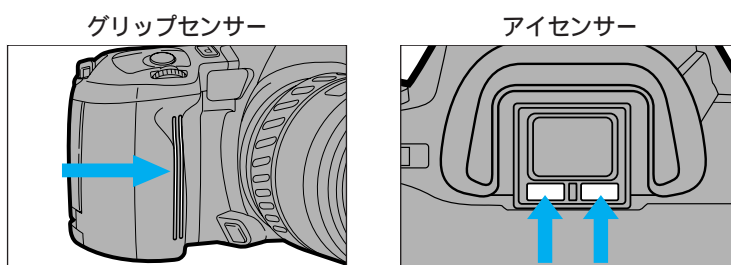
- **遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は−方向へ回してください。**
- **ファインダー内にフォーカスフレームが現れない場合は、シャッターボタンを半押し（20ページ参照）してください。**
- **視度調整ダイヤルを回しにくいときは、アイピースカップを取り外すと、操作しやすくなります。**

- **視度調整アタッチメント1000（別売付属品）を併用することもできます。本体の視度調整機構を用いてもファインダー表示がはっきり見えない場合にお使いください。近視用4種類、遠視用5種類があります。**

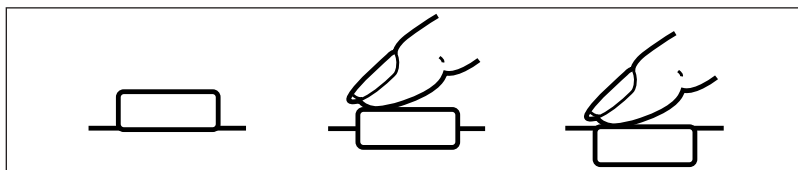
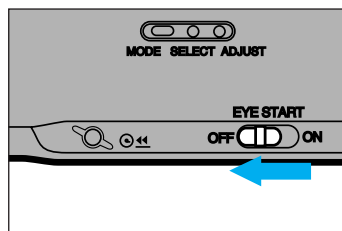
アイスタート（カメラを構えるだけで撮影準備が完了します）

このカメラは、構えるだけでピント合わせや露出の決定などすべての撮影準備が整います。これを「アイスタート」と呼んでいます。
このカメラは、グリップセンサーと、ファインダーの下にあるアイセンサーでカメラを構えていることを検知しています。

グリップセンサー

アイセンサー

- **カメラを三脚に取り付けているときなどグリップから指が離れているときは、アイスタートは働きません。また、手袋をしているときは、グリップセンサーにさわっていてもアイスタートは働きません。このような場合は、シャッターボタンを「半押し」してください。**
- **グリップセンサーにさわらなくてもアイスタートが働くように、カメラの設定を変更することができます（102、103ページ参照）。**

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

<アイスタートを働かせないようにするには>

ボディ裏側のアイスタートスイッチをOFFにします。

●この場合、シャッターボタンを半押しすると、カメラはピントを合わせ、露出を決定します。

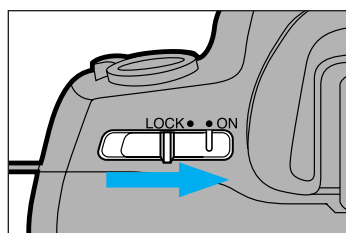
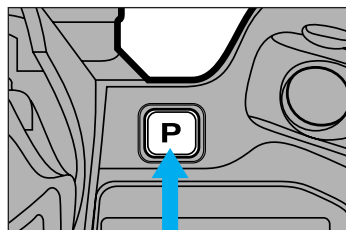
●アイスタートスイッチがOFFでも、フォーカスフレームはカメラを構えると表示されます。

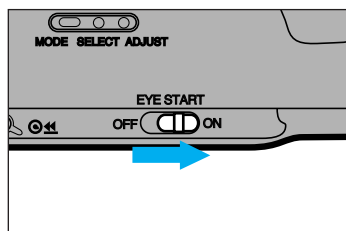
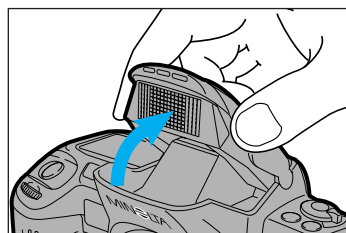
※アイスタートが働くように設定していても、約10分間アイセンサーに何も検知されなかった場合、節電のため、アイスタートの機能が自動的にOFFになります。再びアイスタートを働かせるようにしたいときは、グリップセンサーに触れるようにグリップを握り直してください。

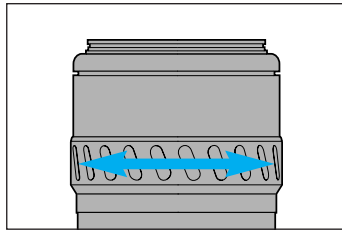
アイスタートスイッチの機能を、“アイスタートが働く⟷アイスタートを働かせない”の切り替え 以外の、次の機能のいずれかに変えることができます。詳しくは本書102ページ「カメラの機能をお好みの状態に変更できます（カスタム設定）」の箇所をご覧ください。

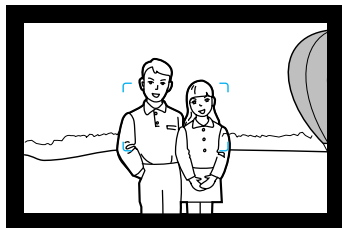
①（アイスタートスイッチの位置に関係なく）アイスタートは常に働く。
アイスタートスイッチは、“ダイヤル機能有効⟷ダイヤル機能無効”を切り替えるスイッチの役割をする。

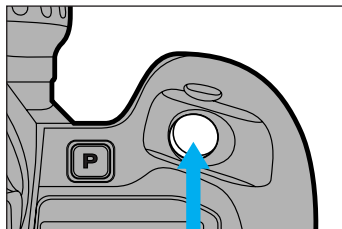
②（アイスタートスイッチの位置に関係なく）アイスタートは常に働かない。
アイスタートスイッチは、“ダイヤル機能有効⟷ダイヤル機能無効”を切り替えるスイッチの役割をする。

全自動で撮影しましょう

1 メインスイッチをONにします。

2 プログラムセットボタンを押します。

●カメラは全自動の状態になります。特に設定を変えないかぎり、毎回押す必要はありません。

3 アイスタートスイッチをONにします。

4 フラッシュ撮影したいときは、内蔵フラッシュを持ち上げます。

●内蔵フラッシュが上がっていると、フラッシュが必ず発光します。

5 ズームレンズを使っているときは、撮影したいものが希望の大きさになるようにズームリングを回します。

●AFズームXiレンズをご使用の場合は、レンズのAZ／MZスイッチをAZにしてください。

6 ピントを合わせたいものがフォーカスフレーム[ ]に入るようにカメラを構えます。

●自動的にピントが合います。

7 シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

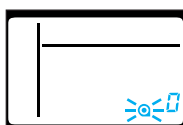
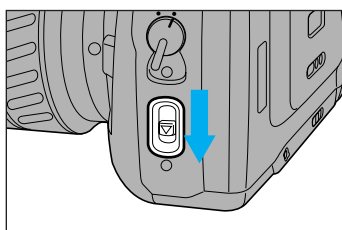
●フィルムの最後のコマを撮影すると、自動的にフィルムが巻き戻されます。

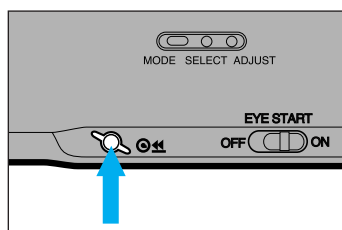
このカメラは、使用中のフィルムの残り枚数が9枚以下になると、ファインダー表示部にその残り枚数を表示します。

5.6 −2・1・0・1・2+ 9

●DXコードの付いていないフィルム、またDXコードがあってもフィルム枚数情報を持っていないフィルムを使用しているときは、表示されません。

フィルムを取り出します

フィルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

フィルムカウンターが "0" になり、フィルム表示が点滅したら巻き戻しは終了です。

1 巻き戻しの終了を待ちます。
2 裏ぶたを開けてフィルムを取り出します。

<最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは>

メインスイッチをONにして、ボディ背面の途中巻き戻しボタンを押します。

●巻き戻しの途中で途中巻き戻しボタンを押すと、巻き戻しが高速になります（巻き戻しの音は多少大きくなります）。

☞ 常に高速巻き戻しになるようにカメラの設定を変更できます。詳しくは本書102ページ「カスタム設定」の箇所をご覧ください。

ピント合わせ（フォーカス）について

ここでは、カメラが全自動の状態（プログラムセットボタンを押した直後の状態）での、基本的なオートフォーカス機能について説明しています。また、写したいものが画面中央にない場合に、オートフォーカスで写したいものにピントを合わせるためのフォーカスロック（ピントの固定）の方法や、オートフォーカスではピントが合いにくい被写体にピントを合わせるための、手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス）の操作方法についても説明しています。

☞AFフレーム選択ボタンと前ダイヤルで、より細かくオートフォーカスをコントロールできます。詳しくは本書63ページ「よりクリエイティブな作画のために【オートフォーカス応用編】」の箇所をご覧ください。

基本編

ファインダー表示部のフォーカス表示

ファインダー内のフォーカス表示が、以下のようにピントの状態をお知らせします。

250 5.6

被写体にピントが合っています。

250 5.6

ピントが固定されています（シャッターボタン半押し後で被写体が止まっている場合）。

125 8

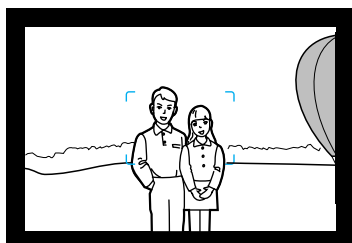
ピント合わせの途中です（シャッターは切れません）。

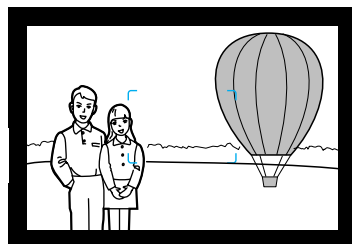
500 4.5

ピントが合いません（シャッターは切れません。30ページをご覧ください）。

写したいものが画面中央にないときは

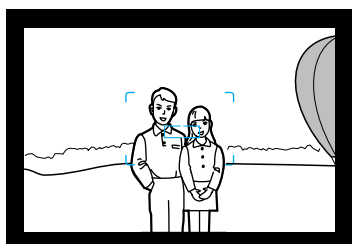
写したいものが画面中央にない構図で撮ろうとすると、写したいものがフォーカスフレームに入らない場合があります。そのまま撮影すると、背景にピントが合って被写体がぼけた写真になってしまうことがあります。このような場合は、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

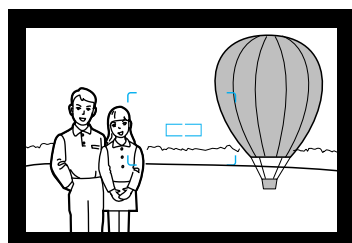
シャッターボタンを使う方法

1 ピントを合わせたいものにフォーカスフレーム［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

●**ファインダー内のフォーカス表示が(●)から ● に変わり、ピントが固定されます。**

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にして撮影します。

●**撮影後、シャッターボタンから指を離すとピントの固定は解除されます。シャッターを切った後も指を離さずにそのまま半押し状態にもどすと、ピントの固定は解除されませんので、同じピント位置での撮影を続けることができます。**

写したいものが画面中央にないときは

AFフレーム選択ボタンを使う方法

1 ピントを合わせたいものにフォーカスフレーム［ ］を合わせ、AFフレーム選択ボタンを押します。

●ファインダー内のフォーカス表示が(●)から ● に変わり、ピントが固定されます。またピントを合わせた位置のローカルフォーカスフレームが表示されます(67ページ参照)。

2 AFフレーム選択ボタンを押したまま、撮りたい構図にして撮影します。

●撮影後、AFフレーム選択ボタンから指を離すとピントの固定は解除されます。シャッターを切った後もAFフレーム選択ボタンを押し続けていると、ピントの固定は解除されませんので、同じピント位置での撮影を続けることができます。

☞ AFフレーム選択ボタンの機能を、「AFフレーム選択ボタンを押している間、中央のローカルフォーカスフレームの選択」に変更することができます。詳しくは本書102、103ページ「カメラの機能をお好みの状態に変更できます(カスタム設定)」の箇所をご覧ください。

●オートフォーカスモードを A（AF制御自動切り替え）にしていてピントを固定しにくい場合は、オートフォーカスモードを S（ワンショットAF）に切り替えてみてください（64、65ページ参照）。

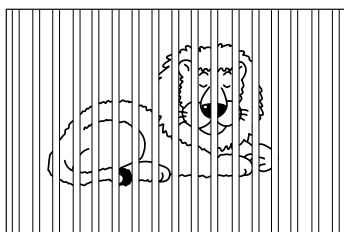
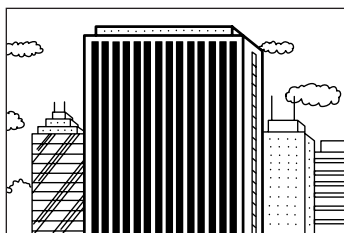
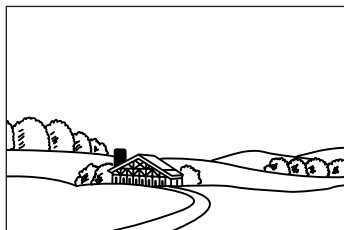
●オートフォーカスモードを C（コンティニュアスAF）にしているとき（64ページ参照）、または、フォーカス表示の ● が点灯しないとき（写したいものにコントラストがないとき、写したいものが動いているときなど）は、フォーカスロックはできません（ピントを固定できません）。

●測光方式に「14分割ハニカムパターン測光」（71ページ参照）を選んでいる場合は、ピントと同時に露出も固定されますので、AFフレーム選択ボタンを押したまま、あるいは、シャッターボタン半押しのまま同じピント位置で続けて撮影する場合、被写体の明るさが変わると適正露出が得られないことがあります。

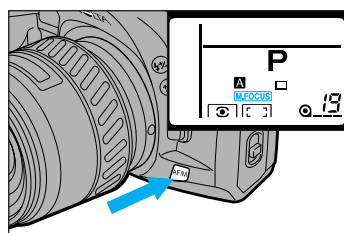
●AFズームXiレンズの場合、ズームリングを手前に引いてピントを固定することもできます。また、フォーカスホールドボタンの付いているレンズの場合、ボタンを押してピントを固定することもできます。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

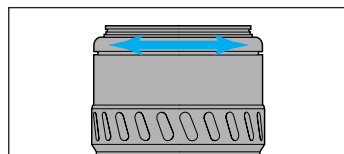
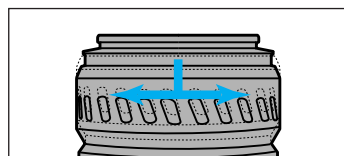
AFフレーム選択ボタンと前ダイヤルの操作で、ワイドフォーカスフレームからローカルフォーカスフレームに切り替えたり、ローカルフォーカスフレームからワイドフォーカスフレームにもどしたりすることができます。詳しくは本書67ページ「よりクリエイティブな作画のために【オートフォーカス応用編】」の<AFフレーム選択ボタン>の箇所をご覧ください。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、以下のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にあるピントの合いやすい被写体でフォーカスロック撮影するか、次ページの手動によるピント合わせを行ってください。

おりの中の動物など、フォーカスフレームの中に距離の異なる被写体が混じっているとき

オフィスビルの外観など、繰り返しパターンの連続する被写体

青空や白壁などコントラスト（明暗差）のない被写体

太陽のように明るすぎる被写体や、車のボディ、水面などきらきら輝いている被写体

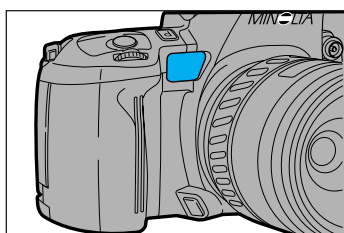
手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス）

1 フォーカスモード（AF/M）ボタンを、カチッと音がするまでカメラ側に押し込みます。

●**ボディ表示部にM.FOCUSと表示されます。**

2 ＜AFレンズ・AFズームレンズの場合＞
被写体が最もはっきり見えるように、レンズのフォーカスリングを左右に回します。

＜AFズームXiレンズ・AFパワーズームレンズの場合＞
ズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。被写体が最もはっきり見えるところでズームリングから指を離しま

●オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ファインダー内のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします（26ページ参照）。

●もう一度フォーカスモード（AF/M）ボタンを押すと、オートフォーカスにもどります（レンズ交換や、メインスイッチをLOCKにして再びONにしても、オートフォーカスにはもどりません）。

●測光方式「14分割ハニカムパターン測光」（71ページ参照）はオートフォーカスと連動しています。したがって、マニュアルフォーカスにすると測光方式は常に中央重点的平均測光になります。

ピント合わせのためにランプが光ります

被写体が暗い、明暗差（コントラスト）が小さいなどの場合、カメラ前面の赤色のランプが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするために光るAF補助光です。

●AF補助光の届く範囲は、約0.7〜7㍍です（当社試験条件による）。
●カメラ構えたときに、AF補助光発光部を指などで覆わないようにしてください。
●プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光します。
●レンズの焦点距離が300㎜以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3×－1×使用時にも、AF補助光は発光しません。
●オートフォーカスモードを🅲（コンティニュアスAF）にしているとき（64ページ参照）はAF補助光は発光しません。

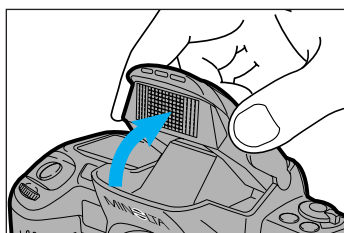
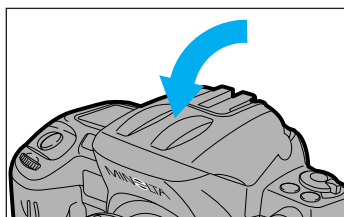
フラッシュを使って撮影しましょう

このカメラにはフラッシュが内蔵されていますので、手軽にフラッシュ撮影を楽しむことができます。
ここでは、カメラが全自動の状態（プログラムセットボタンを押した直後の状態）での、基本的なフラッシュ撮影について説明しています。

☞逆光での人物を美しく撮る日中シンクロ撮影、夜景を背景にした人物撮影で、人物・夜景両方をきれいに写すスローシンクロ撮影、低速シャッターで動く被写体をフラッシュ撮影するときに、被写体の軌跡を自然に描写する後幕シンクロ撮影、といった高度なフラッシュ撮影もできます。別売のプログラムフラッシュを使えば、ハイスピードシンクロ撮影やワイヤレスフラッシュ撮影ができます。詳しくは本書86～97ページ「よりクリエイティブな作画のために【フラッシュ撮影応用編】」の箇所をご覧ください。

基本編

内蔵フラッシュを使って撮影しましょう

このカメラの内蔵フラッシュは、焦点距離24㎜から80㎜のレンズの画角をカバーします。

内蔵フラッシュを持ち上げていれば、フラッシュは必ず発光します(強制発光)。

押し下げていると、フラッシュは発光しません(発光禁止)。

●フラッシュの充電が完了すると、ファインダー内に ϟ が点灯します。点灯を確認してから撮影してください。

●フラッシュの光が届く範囲には限度があります。36ページの表を目安にして、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。フラッシュ光が被写体に届いた場合は、撮影後にファインダー内の ϟ が点滅します。

☞カメラが全自動の状態(プログラムセットボタンを押した直後の状態)の時、内蔵フラッシュを持ち上げていれば、フラッシュが必要なときは自動的にフラッシュ撮影になる(自動発光する)ようカメラの設定を変更できます。詳しくは本書102、103ページ「カスタム設定」の箇所をご覧ください。

ファインダー表示部のフラッシュ表示

フラッシュの充電が完了しました。

（撮影後に点滅）フラッシュ光が被写体に届きました。

ハイスピードシンクロ撮影になります（87ページ参照）。

ワイヤレスフラッシュ撮影が選択されています（92〜96ページ参照）。

フラッシュの使用をおすすめします。
この表示は、被写体が逆光の状態で、フラッシュを使用した方がきれいに撮れる、とカメラが判断したときに現れることがあります（ただし、「カスタム設定」でPモード時・フラッシュ自動発光に設定していて（前ページ参照）、かつ、内蔵フラッシュが下がっている場合のみ）。

内蔵フラッシュの届く範囲

内蔵フラッシュの光が届く範囲には限度があり、それはレンズの焦点距離や絞り値*、フィルムの感度によって異なります。以下の表を目安にしてください。

*絞り値についての詳細は54ページをご覧ください。

ISO100フィルム使用時

	焦点距離（内蔵ズームフラッシュの焦点位置）	
絞り値	24㎜の画角カバー時	80㎜の画角カバー時
F2.8	1.0 - 5.0㍍	1.0 - 7.1㍍
F3.5	1.0 - 4.0㍍	1.0 - 5.7㍍
F4	1.0 - 3.5㍍	1.0 - 5.0㍍
F5.6	1.0 - 2.5㍍	1.0 - 3.5㍍

ISO400フィルム使用時

	焦点距離（内蔵ズームフラッシュの焦点位置）	
絞り値	24㎜の画角カバー時	80㎜の画角カバー時
F2.8	1.0 - 10.0㍍	1.0 - 14.2㍍
F3.5	1.0 - 8.0㍍	1.0 - 11.4㍍
F4	1.0 - 7.0㍍	1.0 - 10.0㍍
F5.6	1.0 - 5.0㍍	1.0 - 7.1㍍

●内蔵フラッシュを使って1.0㍍未満で撮影すると、写真の下部に影ができることがあります。

●フラッシュ撮影時にはISO25からISO1000の感度のフィルムをお使いください。ISO1000より高感度のフィルムでフラッシュ撮影すると、適正露出が得られないことがあります。

内蔵フラッシュ使用時のレンズについて

● **内蔵フラッシュ撮影時はレンズフードを外してください。**

● **焦点距離24㎜未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影すると、写真の周囲が極端に暗くなることがあります。**

● **下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影するときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には別売のプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくは裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。**

・AFズーム28-70㎜ F2.8G　　・AFズーム17-35㎜ F3.5G
・AFズーム28-135㎜ F4-4.5

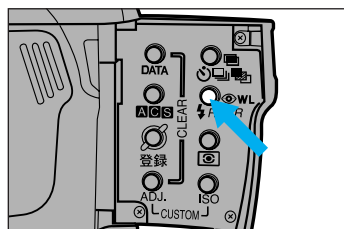
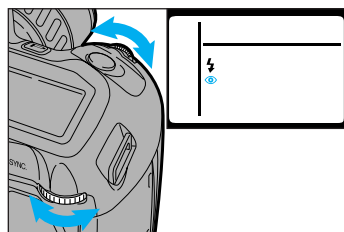
● **下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。**

・AFアポテレ300㎜ F2.8（ハイスピードタイプを含む）
・AFアポテレ600㎜ F4（ハイスピードタイプを含む）

※以下の操作を行ったときは、内蔵ズームフラッシュの初期設定が行われます。
●カメラに電池を入れたとき（カメラの電池を入れ替えたとき）
●内蔵フラッシュを持ち上げたとき
このとき少し音がしますが、故障ではありません。
また、レンズのズーミングに連動して内蔵フラッシュが移動します。このときにも少し音がしますが、故障ではありません。

※内蔵ズームフラッシュのズーム位置をワイド端で固定させることができます（本書102、103ページ「カメラの機能をお好みの状態に変更できます（カスタム設定）」参照）。ワイド端で固定させることにより、50㎜マクロレンズ使用時に、撮影倍率1／2倍まで、内蔵フラッシュで均一な配光のフラッシュ撮影ができるようになります。

目が赤く写るのを軽減します

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が眼の中で反射して、まれに眼が赤く写ることがあります。撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光させることで、この現象を和らげることができます。

1 グリップドアを開けてフラッシュモード選択ボタンを押します。

2 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に👁を表示させ、シャッターボタンを半押しします。

●本発光の前に数回、小光量の発光（プリ発光）が行われます。人物撮影のときは写される人にその旨を伝えておくとよいでしょう。
●プリ発光のない通常のフラッシュ撮影に戻すには、同じ操作でボディ表示部の👁を消します。

☞赤目軽減のプリ発光の有無をカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼びだすことができます。詳しくは本書99ページ「登録機能」の箇所をご覧ください。

撮影シーンに合わせて撮ってみましょう

撮りたい場面の絵表示を選ぶだけで、撮影に適した状態にカメラが設定されますので（撮影シーンセレクター）、簡単に撮ることができます。

☞シャッター速度や絞り値などを直接コントロールして、動いているものの描写や背景の描写を撮影者の思い通りに設定することができます。詳しくは本書47ページ「写真の描写を変えてみましょう」の箇所をご覧ください。

基本編

撮影シーンセレクター

撮影したい場面を5種類の絵表示の中から選ぶと、撮影に適したシャッター速度と絞り値をカメラが自動的に設定しますので、その場面に合った写真を簡単に撮ることができます。

ポートレート

人物が浮き立つように、背景が美しくぼけて写ります。

記念撮影・風景

どこで撮影したかがすぐ分かるように、手前の人物にも背景にもピントが合うように写ります。

クローズアップ

小さな草花や昆虫などを近接撮影するときに、被写体全体がくっきりとシャープに写ります。

スポーツ

速く動いているものでも、ぶれないで写ります。

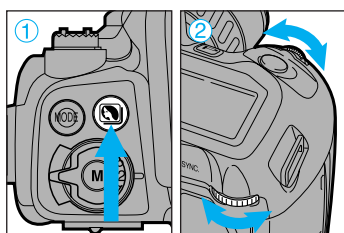
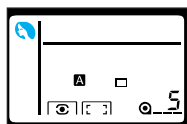
夜景ポートレート・夜景

夜景がつぶれることなくきれいに写ります。

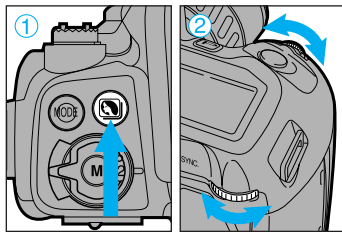
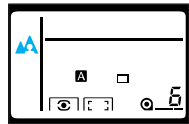
●プログラムセットボタンを押すと、カメラは全自動の状態になり、ボディ表示部にＰが表示されます。

☞撮影シーンセレクターの5つのモードのいずれかひとつをカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼びだすことができます。詳しくは本書99ページ「登録機能」の箇所をご覧ください。

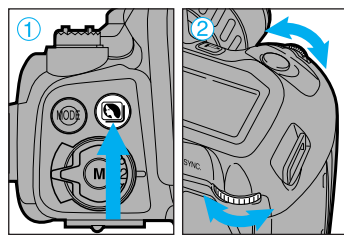
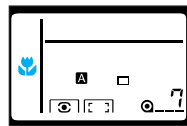
ポートレート

背景を程よくぼかし、人物をくっきりと立体的に引き立たせます。

①撮影シーン選択ボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に を表示させ、ボタンを離します。

●逆光のときや、顔に影ができているときは、フラッシュの使用をおすすめします。
●背景をぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

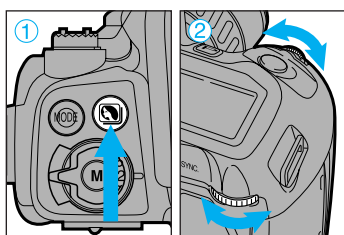
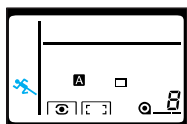
記念撮影・風景

手前の人物も、思い出に残したい背景も、両方ともくっきりと写します。風景写真もシャープに写せます。

①撮影シーン選択ボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に ▲ を表示させ、ボタンを離します。

●記念写真で逆光のときは、フラッシュの使用をおすすめします。風景のみ撮影するときは、フラッシュ光が届かないのでフラッシュは使用しないでください（内蔵フラッシュを下げる、外付けフラッシュは電源をOFFにする）。
●曇りの日などそれほど明るくないときは、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
●夜景を背景に記念撮影する場合は、夜景ポートレートモードをお使いください。
●画面全体にピントを合わせるには、レンズの広角側の方が効果があります。

クローズアップ

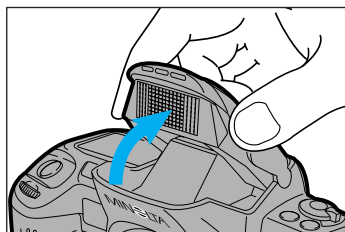
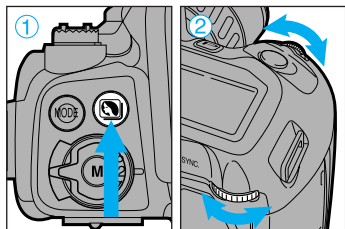
**小さい草花や昆虫などを近接撮影するときに使います。
被写体全体をくっきりとシャープに写せます。**

①撮影シーン選択ボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に を表示させ、ボタンを離します。

●1.0㍍以内の距離では、写真の下部に影ができるため、内蔵フラッシュは使用しないでください。1.0㍍以内のフラッシュ撮影には、別売のプログラムフラッシュをおすすめします。
●クローズアップ撮影では手ぶれが目立ちやすくなりますので、三脚の使用をおすすめします。
●レンズの最短撮影距離に注意して撮影してください。
●より大きく撮影するには、AFマクロレンズをおすすめします。

スポーツ

速く動いているものを速いシャッター速度でシャープに写し止めます。

①撮影シーン選択ボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に 🏃 を表示させ、ボタンを離します。

●なるべく高感度なフィルム（ISO400など）の使用をおすすめします。
●フラッシュ光が届かない場合（内蔵フラッシュ光の届く範囲については36ページ参照）は、フラッシュは使用しないでください。
●望遠レンズ使用時には、手ぶれしやすいので三脚の使用をおすすめします。

夜景ポートレート・夜景

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景の場合）

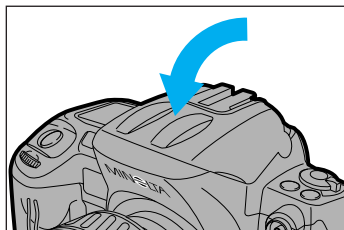
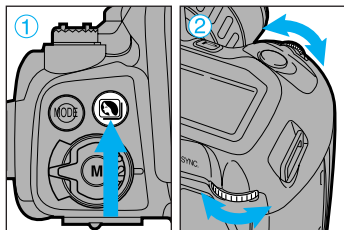
夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。

1 内蔵フラッシュを持ち上げます。

2 ①撮影シーン選択ボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に 👤★ を表示させ、ボタンを離します。

●手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。また、撮影される人物が動くと写真もぶれるので、動かないように注意してください。
●なるべく高感度なフィルム（ISO400など）の使用をおすすめします。

（次ページに続く）

夜景ポートレート・夜景

夜景撮影（夜景のみの場合）

フラッシュ光の届かない夜景をきれいに写します。

1 内蔵フラッシュを押し下げます。

2 ①撮影シーン選択ボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に を表示させ、ボタンを離します。

●手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。
●なるべく高感度なフィルム（ISO400など）の使用をおすすめします。
●明かりの少ない、全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。
●ピントが合いにくいときは、明るい部分でピントを合わせてから撮影してください（27、28ページ参照）。

写真の描写を変えてみましょう

絞りやシャッター速度を変えることで写真の描写を変えることができます。これはコンパクトカメラにはない、一眼レフの大きな特徴のひとつです。この章では、撮影者の希望する絞り値やシャッター速度で写真をとる方法について説明しています。

☞このカメラは、露出補正や露出ずらし(ブラケット)、測光インジケーターなど撮影者の意図通りに撮影するためのさまざまな機能を持っています。詳しくは本書71～85ページ「よりクリエイティブな作画のために【露出のコントロール】」の箇所をご覧ください。

応用編

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。このカメラには以下の4つの露出モードがあります。

P（プログラム）モード （50ページ参照）

撮影シーンに適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。
また、前後のダイヤルを回すと、Pモードのまま一時的に絞り値やシャッター速度を任意に選ぶことができる、イメージシフト（PAシフト/PSシフト）になります。

A（絞り優先）モード （52ページ参照）

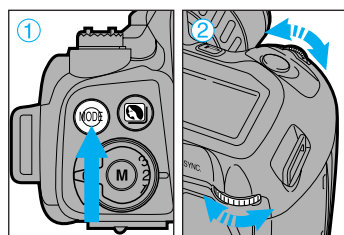
撮影者が希望の絞り値を決めることができます。カメラが自動的にシャッター速度を決めます。
ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のボケ具合をコントロールしたいときなどに使います。

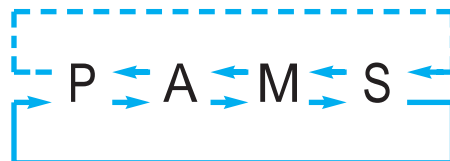
S（シャッター速度優先）モード （55ページ参照）

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。カメラが自動的に絞り値を決めます。
スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして動くものを止めて表現したり、逆に流動感を表現したいときなどに使います。

M（マニュアル）モード （58ページ参照）

撮影者が絞り値とシャッター速度の両方を決めます。
絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、単体の露出計で測った値で撮影するときに使います。

<露出モードの選び方>

①露出モードボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、希望する露出モードをボディ表示部に表示させ、露出モードボタンを離します。

●モードは以下のように変わります。

●プログラムセットボタンを押すと、カメラは全自動の状態になり、ボディ表示部にＰが表示されます。

☞4つの露出モードのいずれかひとつをカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼びだすことができます。詳しくは本書99ページ「登録機能」の箇所をご覧ください。

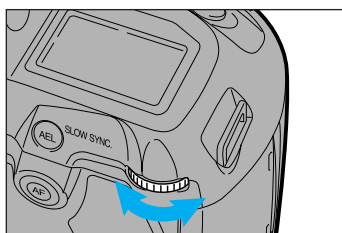
P(プログラム)モード撮影

1 Pモードを選びます。

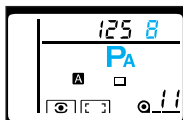
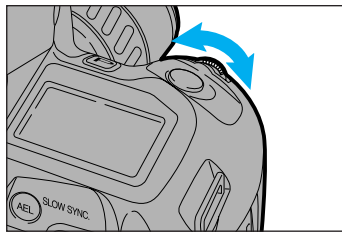
- **露出モードだけをPモードにするには、49ページの操作をします。**
- **Pモードを含めカメラを全自動の状態(123ページ参照)にするときは、プログラムセットボタンを押します。**

2 構図を決めて撮影します。

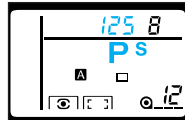
イメージシフト(P_Aシフト、P_Sシフト)

Pモードのまま一時的に絞り値やシャッター速度を任意に選んで撮影できます。

P_Aシフト

Pモードのままで、A(絞り優先)モードのような使い方ができます。

ファインダー表示を見ながら、後ダイヤルを回して希望の絞り値を選びます。

- **シャッター速度は自動的に決まります。**
- **P_Aシフトで選んだ絞り値は、写したいものの明るさが変わっても、そのまま保持されます。**

PSシフト

Pモードのままで、S（シャッター速度優先）モードのような使い方ができます。

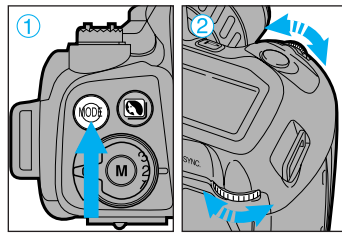
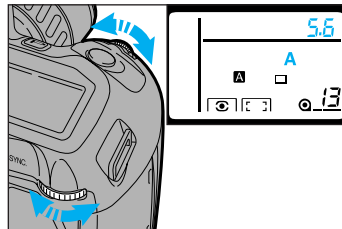
ファインダー表示を見ながら、前ダイヤルを回して希望のシャッター速度を選びます。

- 絞り値は自動的に決まります。
- PSシフトで選んだシャッター速度は、写したいものの明るさが変わっても、そのまま保持されます。

- PAシフト、PSシフトにするときは、ファインダーをのぞいて絞り値とシャッター速度が表示されているときにダイヤルを回してください。
- PAシフト、PSシフト中はフラッシュは使用できません。またフラッシュが発光するとき（ファインダー表示部にが点灯するとき）は、PAシフト、PSシフトに切り替わりません。
- 表示部の絞り値とシャッター速度が点滅している場合は、適正露出が得られません。点滅しなくなるまでダイヤルを回してください（125ページ参照）。

＜PAシフト、PSシフトの解除＞

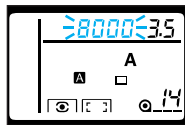
PAシフト、PSシフトを解除するには、露出モードボタンを押してください。もとのPモードにもどります。
メインスイッチをLOCKにしたときや、ファインダーから目を離し、表示部から絞り値またはシャッター速度の表示が消えたときもPAシフト、PSシフトは解除され、もとのPモードにもどります。

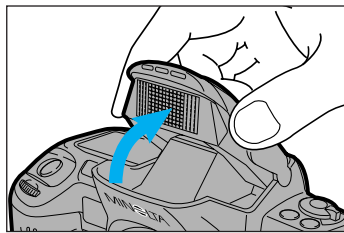
A(絞り優先)モード撮影

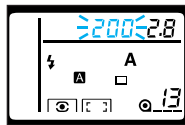
撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞り値が変わると被写体以外のもののピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。絞り値を大きくすると近くのものから遠くのものまでくっきりと写り、小さくすると被写体以外のものがぼけやすくなります。

1 ①露出モードボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部にAを表示させます。

2 前または後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

- ●━━▶へ回すと絞り値が大きくなります。
- ●◀▪▪▪▪へ回すと絞り値が小さくなります。

3 構図を決めて、撮影します。

●絞り値を大きくしても、ファインダー内の像は背景までピントが合っているようには見えませんが、フィルム上およびプリントでは背景までピントが合って写ります。
●プレビュー(絞り込み)ボタンを押すと、撮影前におおよその被写体のボケ具合を確認できます(118ページ参照)。

シャッター速度が 8000または 30"で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。シャッター速度が点滅しなくなるまで、絞り値を変更してください。

A モードフラッシュ撮影

内蔵フラッシュを持ち上げていると(プログラムフラッシュ装着時は、フラッシュの電源ONなら)、フラッシュは必ず発光します。

●ファインダー表示部に が表示されます。
●シャッター速度は1/200秒以下で自動設定されます。ハイスピードシンクロ(別売のプログラムフラッシュ5400HSが必要です。87ページ参照)の機能を使えば、1/200秒より速いシャッター速度でフラッシュ撮影できます。
※絞り値を大きくする(絞りを絞り込む)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。できるだけ絞り値を小さくして(開放側で)撮影してください。
●フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

●シャッター速度が 200で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーの写真になります。シャッター速度が点滅しなくなるまで、絞り値を変更してください(絞り値を大きくし過ぎると、フラッシュ光が被写体に届かなくなることがあります)。

A（絞り優先）モード撮影

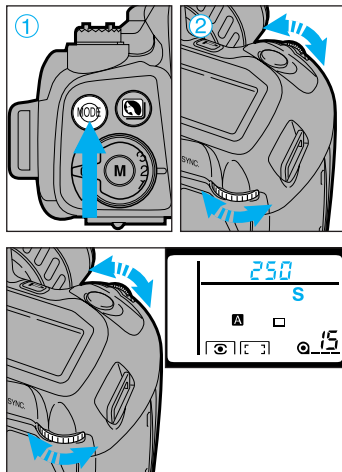
絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

左の写真は、絞り値が小さい状態で撮影しています。ピントが被写体のみに合っていて背景はぼけており、人物がくっきり浮き出てポートレートとしてふさわしい写真になっています。
右の写真は、絞り値が大きい状態で撮影しています。被写体だけではなくその前後の広い範囲にピントが合って見え、記念撮影等に適した写真になっています。
このような背景の描写は、レンズの絞りで調節できます。絞りとは、フィルムに露光される光の量を調節する穴のことで、左のように小さい値（F3.5、4など）ほど背景がぼけ（ピントの合って見える範囲が狭くなり）、右のように大きい値（F16、22）ほど背景までピントが合い（ピントの合って見える範囲が広くなり）ます。

●広角レンズほど背景までピントが合って写り、望遠レンズほど背景がぼけやすくなります。
●カメラから被写体までの距離が短いほど、背景がぼけやすくなります。

S(シャッター速度優先)モード撮影

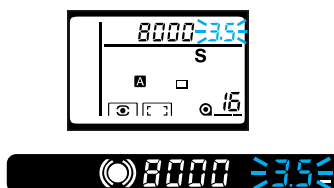
撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。シャッター速度が速いときには動いているものがくっきりと止まって見え、遅いときは動いているものが流れるように写ります。

1 ①露出モードボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部にSを表示させます。

2 前または後ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

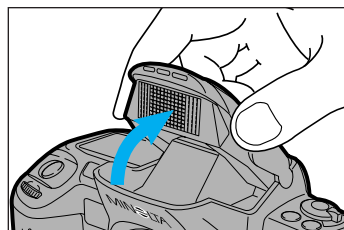
●→へ回すとシャッター速度が速くなります。
●←‥‥へ回すとシャッター速度が遅くなります。

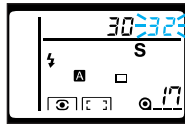
3 構図を決めて、撮影します。

(次ページへ続く)

S（シャッター速度優先）モード撮影

絞り値が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。絞り値が点滅しなくなるまで、シャッター速度を変更してください。

●表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。
2"、4"など「"」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。

Sモードフラッシュ撮影

内蔵フラッシュを持ち上げていると（プログラムフラッシュ装着時は、フラッシュの電源ONなら）、フラッシュは必ず発光します。

●ファインダー表示部に が表示されます。
●シャッター速度は1/200秒以下の範囲で自由に選べます。絞り値はご使用のレンズの範囲内で自動的に設定されます。
※絞り値が大きくなる（絞りが絞り込まれる）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。できるだけ絞り値が小さくなる（開放側になる）ようシャッター速度を選んでください。
●フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

●絞り値が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーの写真になります。絞り値が点滅しなくなるまで、シャッター速度を変更してください。

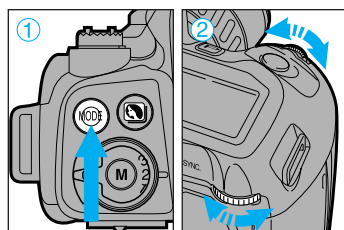
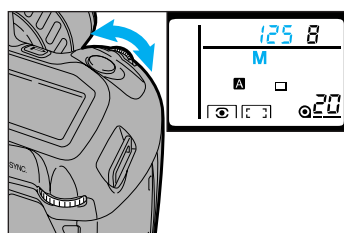
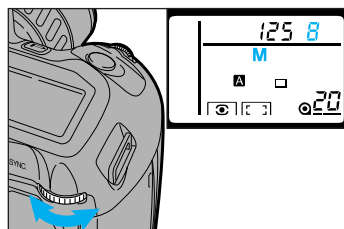
シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

左の写真は、速いシャッター速度で撮影しています。走っている子供が止まって見え、その様子がよく分かります。
右の写真は、遅いシャッター速度で撮影しています。背景が流れ、子供の速さが強調されています※。
このような動いているものの描写は、カメラのシャッター速度で調節できます。シャッター速度とは、光がフィルムに当たっている時間のことで、左のようにシャッター速度が速い（1/500秒、1/1000秒など）ほど動くものが止まって写り、右のように遅い（1/15秒、1/30秒）ほど流れるように写ります。

※右の写真は「流し撮り」といって、走っている子供の動きに合わせてカメラを動かしたものです。この場面を流し撮りではなく、カメラを固定したままで普通に撮ると、背景は流れずに子供が流れて写ります。

M（マニュアル）モード撮影

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。露出計を使って撮影するとき、露出を少しづつ変えて撮影するときなどに便利です。

1 ①露出モードボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部にMを表示させます。

2 前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

3 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

4 構図を決めて、撮影します。

Mモードでは、ファインダー内の測光インジケーター*が、撮影者が設定した絞り値とシャッター速度による露出値と、各測光方式**に基づいてカメラが測光した値との差をお知らせします（メータードマニュアル）。

*測光インジケーターの詳細については、84、85ページをご覧ください。
**測光方式の詳細については、71、72ページをご覧ください。

250 5.6 −2・1・0・1・2+

適正露出です

125 5.6 −2・1・0・1・2+

露出オーバーになります（+1段）

500 6.7 −2・1・0・1・2+

露出アンダーになります（−1.5段）

60 4.5 −2・1・0・1・2+

750 8 −2・1・0・1・2+

●露出の差が+2.5段/−2.5段になった場合は、測光インジケーター右横/左横の三角マークが点灯します。

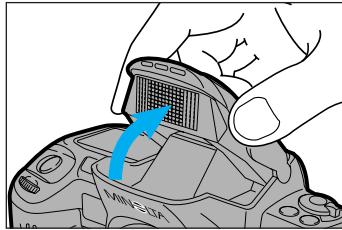
90 3.5 −2・1・0・1・2+

750 9.5 −2・1・0・1・2+

●露出の差が+3.0段/−3.0段以上になった場合は、測光インジケーター右横/左横の三角マークが点滅します。

（次ページへ続く）

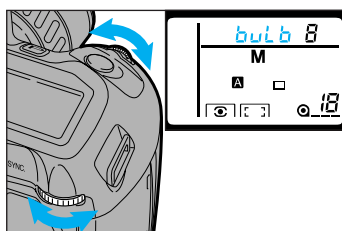
M（マニュアル）モード撮影

Mモードフラッシュ撮影

内蔵フラッシュを持ち上げていると（プログラムフラッシュ装着時は、フラッシュの電源ONなら）、フラッシュは必ず発光します。

●ファインダー表示部にが表示されます。
●シャッター速度は1/200秒以下の範囲で自由に選べます。絞り値はご使用のレンズの範囲内で自由に選べます。
※絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光の届く範囲が小さくなります。できるだけ絞り値を小さくして（開放側で）撮影してください。
●フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

長時間露光（バルブ撮影）

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。長時間の露光が必要なときに使用します。

1 露出モードをMモードにします。

2 ①前ダイヤルを回して「buLb」を選び、②後ダイヤルを回して希望の絞り値を選びます。

3 必要な時間、シャッターボタンを押し続けます。

- **バルブ撮影のときは、カメラを三脚に取り付けて撮影することをおすすめします。また、リモートレリーズターミナルにリモートコードRC-1000S/L（別売）を取り付ければ、カメラぶれの防止に役立つとともに、シャッターボタンを押した状態で固定できます。リモートレリーズターミナルのカバーを外してお使いください。**
- **ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースキャップを取り付けてください（11ページ参照）。**

この章は、一眼レフカメラを初めてお使いになる方には、多少難しいかもしれません。分かりにくければ、98ページの「より有効にご活用いただくために」から先にお読みください。

よりクリエイティブな作画のために

【オートフォーカス応用編】 ☞63ページをご覧ください。
【露出のコントロール】 ☞71ページをご覧ください。
【フラッシュ撮影応用編】 ☞86ページをご覧ください。

このカメラには、カメラや写真についてある程度の知識や経験をお持ちの方が撮影される上で、作画や露出判断の手助けとなる、さまざまな機能が搭載されています。これらを使うことで、撮影者の意図が反映された、より創造的な写真を撮ることができます。

オートフォーカスモード

このカメラには、コンティニュアスAF（C）、ワンショットAF（S）、およびコンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わる、AF制御自動切り替え（A）の3通りのオートフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

AF制御自動切り替え（A）

被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わります。
被写体が動いているときは、シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。
被写体が止まっているときは、シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定（フォーカスロック）します。
シャッターチャンスを逃すことなく撮影に専念でき、人物撮影や記念撮影からスナップ、風景写真など幅広いシーンでお使いいただけます。

オートフォーカスモード

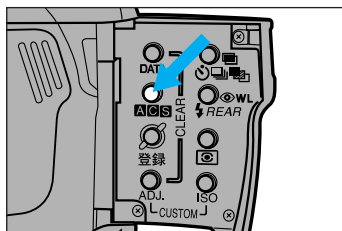
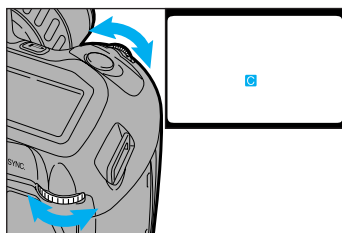
コンティニュアスAF（C）

シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。
動きの激しい被写体、たとえば運動会の徒競走や競馬、鉄道写真、自動車レースなどの撮影に効果を発揮します。

ワンショットAF（S）

シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定（フォーカスロック）します。
ほとんど動かない被写体、たとえば建築物や美術品の撮影、あるいは接写・複写撮影などに適しています。

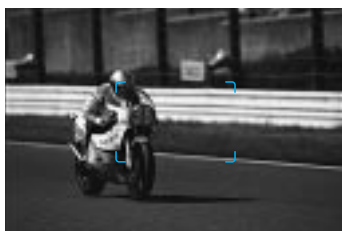
☞ **オートフォーカスモードの3つのモードのいずれかひとつをカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼びだすことができます。詳しくは本書99ページ「登録機能」の箇所をご覧ください。**

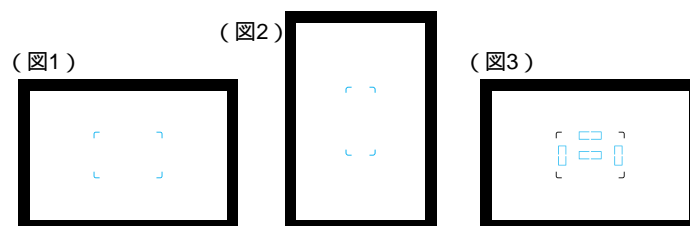
<オートフォーカスモード(AFモード)の切り替え方>

1 グリップドアを開けて、AFモード選択ボタンを押します。

2 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部にAFモードの記号A、C、Sのいずれかを表示させ、シャッターボタンを半押しします。

●**ボディ表示部に**M.FOCUS**が表示されているときは、カメラがマニュアルフォーカス(手動によるピント合わせ)の状態になっています。フォーカスモード(AF/M)ボタンを押して**M.FOCUS**表示を消し、オートフォーカスの状態にしてください。**

フォーカスフレーム

オートフォーカスで撮影するときは、写したいものがフォーカスフレームに重なるようにカメラを構えます。このカメラは、被写体をとらえやすいワイドフォーカスフレームと、部分的なところにピントを合わせやすいローカルフォーカスフレームとを切り替えて使うことができます。

ワイドフォーカスフレーム

広い範囲でピント合わせができますので、フォーカスフレームをそれほど意識しなくても楽に被写体をとらえることができ、スナップ感覚で撮影できます。またスポーツシーンのように動きのある被写体でも容易にとらえることができるため、シャッターチャンスを逃しません。

- ●ワイドフォーカスフレームは、カメラが今横位置なのか縦位置なのか、に応じて自動で切り替わります（横位置のときは図1、縦位置のときは図2）。
- ●パノラマ撮影のとき（116ページ参照）は、横位置/縦位置に関係なく、図2の縦位置のワイドフォーカスフレームが現れます。
- ●ワイドフォーカスフレーム内には、被写体までの距離を測るセンサーが4つ配置されています（図3）。狭い範囲でピント合わせをしたいときは、4つのうち1つを選ぶことができます。これがローカルフォーカスフレームです。

ローカルフォーカスフレーム

4つのAFセンサーのうちの1つのセンサーからの情報をもとにピントを合わせます。そのため、部分的なところや細かな部分にピントを合わせることができます。サッカーやラグビーなど多人数競技で狙った人物を撮りたいとき、人物撮影で人物の目にピントを合わせたいときなどに便利です。

<AFフレーム選択ボタン>

このカメラは、フォーカスフレームに関する操作はすべてAFフレーム選択ボタンと前ダイヤルで行なえます。

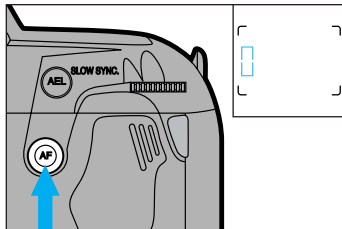
●ワイドフォーカスフレームのときAFフレーム選択ボタンを押すと、ピント合わせに用いたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが表示され、ピントが固定されます。そのため、カメラがどのセンサーでピントを合わせたかを容易に確認できます。カメラの判断したピント合わせが自分の意図通りであれば、そのままシャッターボタンを押し込んで撮影してください。

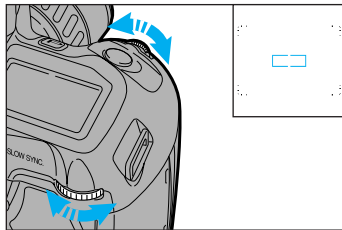
●カメラのピント合わせの判断が自分の意図と違うときは、AFフレーム選択ボタンを押したまま前ダイヤルを回して、希望のセンサー位置のローカルフォーカスフレームにすばやく切り替えることができます。ローカルフォーカスフレームを切り替えるたびに、そのフレーム位置でピントを合わせ直して固定します。

●ワイドフォーカスフレームにもどしたいときは、AFフレーム選択ボタンを押し直し、前ダイヤルを1回回すだけで素早くもどすことができます。

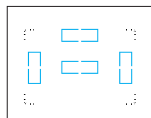
（次ページへ続く）

ローカルフォーカスフレームへの切り替え

ワイドフォーカスフレームからローカルフォーカスフレームに切り替えるには、以下の操作をします。

1 AFフレーム選択ボタンを押します。

- **4つのAFセンサーのうち、ピントを合わせたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが表示され、ピントが固定（フォーカスロック）されます。**
- **ピントが合わなかったときは固定されません。ピントを合わせたセンサー位置のローカルフォーカスフレームも表示されません。**

2 AFフレーム選択ボタンを押したまま、前ダイヤルを←・・・、→どちらかへ1回回します。

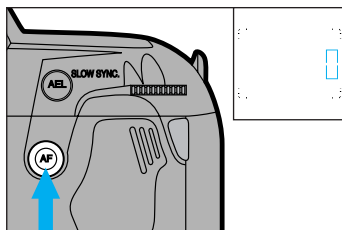
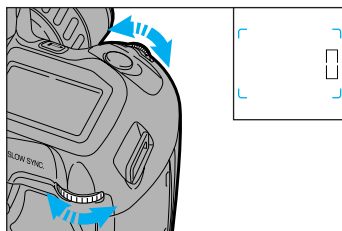
- **中央のローカルフォーカスフレームが表示されます。その位置で、カメラが自動でピントを合わせ直し、そのピントを固定します。そのままシャッターボタンを押し込んで撮影できます。**

3 続けてAFフレーム選択ボタンを押したまま前ダイヤルを回して、希望のローカルフォーカスフレームを選びます。

- **前ダイヤルを→へ1回回すたびに、ローカルフォーカスフレームが、①→②→③→④→①→②→……の順で変わります。**
- **前ダイヤルを←・・・へ1回回すたびに、ローカルフォーカスフレームが、①→④→③→②→①→④→……の順で変わります。**
- **ローカルフォーカスフレームが変わるたびに、画面内のそのフレーム部分でカメラが自動的にピントを合わせ直し、そのピントを固定します。そのままシャッターボタンを押し込んで撮影できます。**

4 AFフレーム選択ボタンを離します。

- **3の操作で選んだローカルフォーカスフレームで固定されます。**

ワイドフォーカスフレームへの切り替え

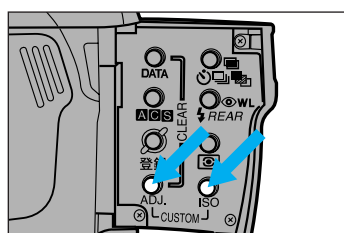
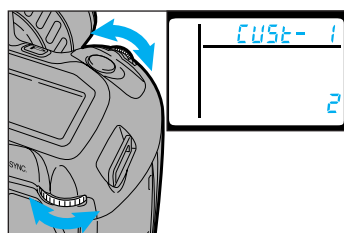
以下のようにして、ローカルフォーカスフレームからワイドフォーカスフレームに切り替えます。

1 AFフレーム選択ボタンを押します。
- **画面内のローカルフォーカスフレーム部分でピント合わせを行なった後、ピントが固定（フォーカスロック）されます。**
- **ピントが合わなかったときは固定されません。**

2 AFフレーム選択ボタンを押したまま、前ダイヤルを◀･･･、━━▶どちらかへ1回回すと、ワイドフォーカスフレームが現れます。
- **4つのAFセンサーのうち、ピントを合わせたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが表示されます。**

3 AFフレーム選択ボタンを離します。
- **ワイドフォーカスフレームにもどると、ローカルフォーカスフレームは消えます。**

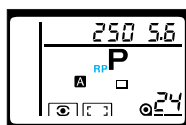
- **この表示は、ローカルフォーカスフレームの位置を分かりやすくするため、ワイドフォーカスフレームを点線で示したものです。実際には、特に注記していないかぎり、ローカルフォーカスフレームとワイドフォーカスフレームが同時に表示されることはありません。**

- **AFレフレックス500㎜／F8 および AFパワーズーム35－80㎜／F4-5.6を使用しているときは、中央のローカルフォーカスフレームのみ使用できます。**
- **「カスタム設定」（102、103ページ参照）で、フォーカスホールドボタンの機能をコンティニュアスAFに変更し、フォーカスホールドボタンを押している場合でも、AFフレーム選択ボタンを押している間はコンティニュアスAFが解除されます（ピント合わせをした後ピントが固定されます）。**

ピントが合わなくてもシャッターを切りたいときは

ピントが合うまでシャッターが切れない「オートフォーカス優先（AFP）」と、ピントが合っていなくても切りたいときにシャッターが切れる「レリーズ優先（RP）」を、撮影に応じて切り替えできます。

1 グリップドアを開けて、アジャスト（ADJ.）ボタンを押したまま、フィルム感度設定ボタンを押します。

2 前ダイヤルを回して、項目番号「1」を選び、後ダイヤルを回して、設定番号「2」を選びます。

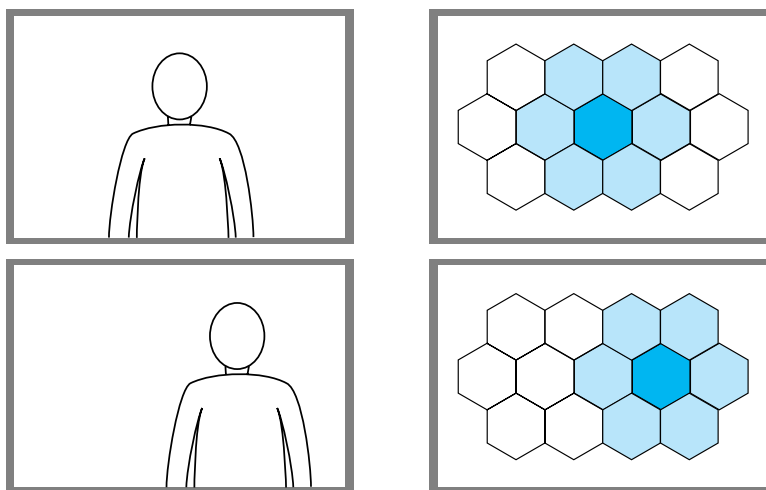
3 シャッターボタンを半押しします。

詳しくは、102、103ページ『カメラの機能をお好みの状態に変更できます（カスタム設定）』の箇所をご覧ください。

- **レリーズ優先（*RP*）に設定した場合、ボディ表示部にRPが表示されます。**
- **レリーズ優先（*RP*）に設定しても、プログラムセットボタンを押すとオートフォーカス優先（*AFP*）になります。**
- **オートフォーカス優先（*AFP*）かレリーズ優先（*RP*）かをカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼び出すことができます。詳しくは本書99ページ「登録機能」の箇所をご覧ください。**

測光方式

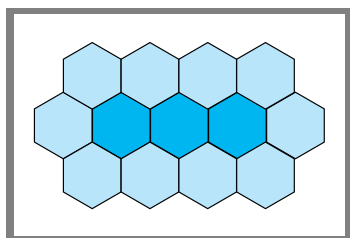
カメラが露出を決定するには、写したいものの明るさ（輝度）を測る（測光する）必要があります。測光の方式が異なると、得られる露出も変わってきます。このカメラは3つの測光方式を備えており、撮影目的や光線の状態によって使い分けることができます。

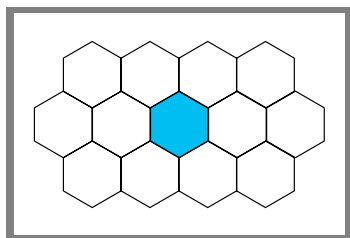
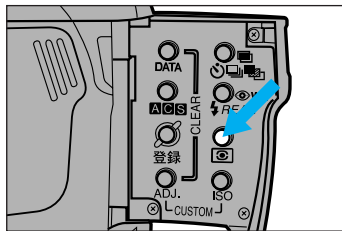
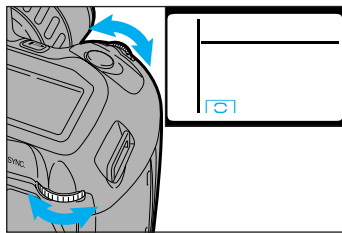
14分割ハニカムパターン測光（）

画面全体を14分割した多分割測光を行ないます。画面内には13個のハニカム（ハチの巣）形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が配置されています。これらの素子はオートフォーカスと連動しているので、画面内のどこに被写体があってもカメラがその位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。人の目で見た感じにいちばん近く撮れる測光方式で、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。

（次ページへ続く）

測光方式

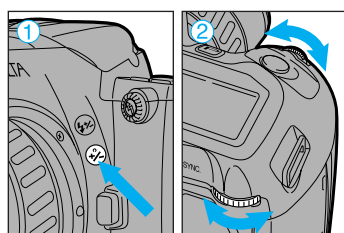
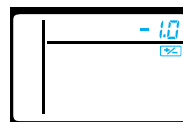
中央重点的平均測光（▭）

画面の中央部を重点的に、画面全体の明るさを平均測光します。逆光のときや被写体が画面中央にない場合などは、露出補正（74ページ参照）が必要になります。

スポット測光（●）

画面中央部のスポット測光フレーム内のみを測光します。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影（75ページ参照）を行なってください。

＜測光方式の選び方＞

1 グリップドアを開けて、測光方式選択ボタンを押します。

2 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に測光方式の記号 ◉、▭、● のいずれかを表示させ、シャッターボタンを半押しします。

☞ **3つの測光方式のいずれかひとつをカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼びだすことができます。詳しくは本書99ページ「登録機能」の箇所をご覧ください。**

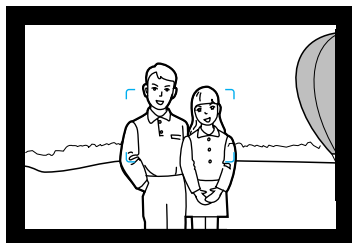
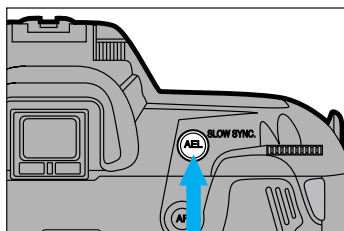
画面全体を明るく・暗くする（露出補正）

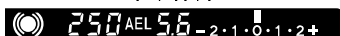
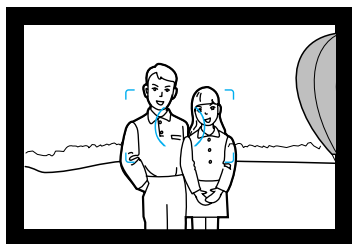
フィルムに当たる光の量を調節して、意図的に画面全体を明るめにしたり（露出オーバー）、逆に暗めにしたりする（露出アンダー）ことができます。

①露出補正ボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、希望の補正値を設定します。設定が終われば露出補正ボタンを離します。

●−3.0から＋3.0まで、0.5段ごとに設定できます。
●露出補正を解除する場合は、上記と同じ操作で補正値を0.0にしてください。
●設定後は、ボディ表示部に［+/−］が表示されます。露出モードが M モード以外のときは、ファインダー内の測光インジケーターに設定した露出補正値が表示されます。

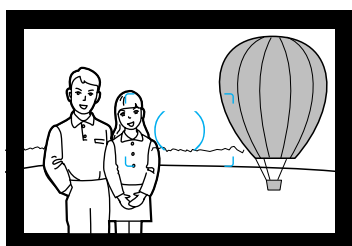
250　5.6 −2・1・0・1・2＋

☞設定した露出補正値をカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼びだすことができます。詳しくは本書99ページ「登録機能」の箇所をご覧ください。

露出の固定（AEロック撮影）

AEロックボタンを押すと、そのとき選択されていた測光方式によって算出された露出が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものとが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに使用します。
AEロックは、Mモード以外の露出モードで使用できます。

1 測光したいものにピントを合わせます。

2 AEロックボタンを押します。

- **ファインダー表示部にAEロック表示（AEL）が点灯し、露出が固定されたことをお知らせします。**
- **ファインダー表示部の右の方に測光インジケーターが表示され、ロック（固定）された露出が、インジケーターの基準位置（0）の上に指標で表示されます。**

（次ページへ続く）

露出の固定(AEロック撮影)

3 AEロックボタンを押したまま、必要ならば写真の構図を変えます。

●前ページ、操作2で固定された露出を基準(0)にして、構図を変えた後のスポット測光フレーム内の測光値がインジケーターに指標で表示されます。

4 AEロックボタンを押したまま、ピントを合わせたい被写体にピントを合わせ直して、撮影します。

●露出は操作2のロック(固定)された値で制御されます。
●同じ露出で連続して撮影する場合は、AEロックボタンを押し続けてください。
●フラッシュが光るとき(ファインダー表示部に⚡が点灯しているとき)は、AEロックボタンを押すと、スローシンクロ撮影になります(88ページ参照)。また、このときスポット測光フレーム、測光インジケーターは表示されません。

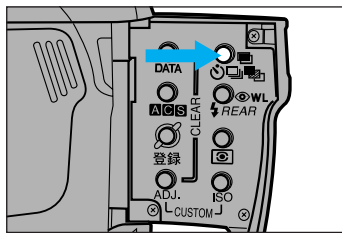
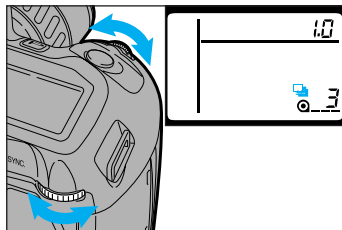
AEロックボタンの操作方法を次のいずれかに変更できます。
詳しくは、102、103ページ「カメラの機能をお好みの状態に変更できます(カスタム設定)」をご覧ください。
①AEロックボタンを押している間だけAEロックが働き、ボタンから指を離すとAEロックは解除される。
②AEロックボタンを一度押すとAEロックが働き、ボタンから指を離しても、AEロックの機能(働き)が残る。もう一度ボタンを押すと解除される。

ブラケット(露出ずらし)撮影

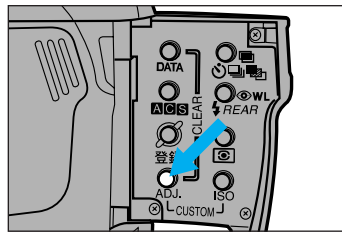
リバーサルフィルムを使うときなど厳密な露出を要求される撮影では、適正露出での撮影以外に、その前後に少し露出をずらして何点か撮影することがあります。これをブラケット(露出ずらし)といいます。このカメラでは、シャッターボタンを押し込むだけで、あらかじめ設定しておいたブラケット段数/撮影枚数での撮影が連続して行なえます。
設定できるブラケット段数と撮影枚数は、以下のとおりです。

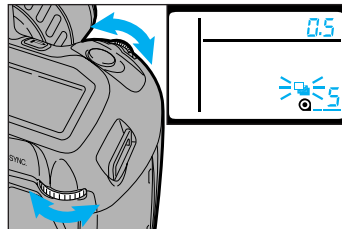
ブラケット段数	0.3段、0.5段、1.0段 のいずれか
撮影枚数	3枚、5枚、7枚 のいずれか

撮影は、【適正露出(±0) ➜ 露出アンダー ➜ 露出オーバー】の順で行われます。

☞ **撮影順を、【露出アンダー ➜ 適正露出(±0) ➜ 露出オーバー】の順に変更することもできます。詳しくは102、103ページ「カメラの機能をお好みの状態に変更できます(カスタム設定)」の箇所をご覧ください。**

1 グリップドアを開けて、セルフタイマー/巻き上げモードボタンを押します。

2 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に[ブラケット表示]を表示させます。

(次ページへ続く)

ブラケット(露出ずらし)撮影

3 グリップドアを開けて、アジャストボタン(ADJ.)を押します。

●が点滅して、数値を変更できることをお知らせします。

4 ①前ダイヤルを回してブラケット段数を選びます。
②後ダイヤルで撮影枚数を設定します。

●設定したら、シャッターボタンを半押しします。

5 シャッターボタンを押し込んで撮影します。撮影が終わるまでシャッターボタンから指を離さないでください。

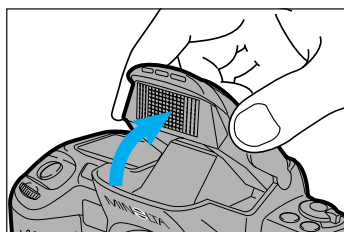
●設定枚数分の撮影が終了しないうちにシャッターボタンから指を離すと、設定通りのブラケット量の写真が撮影されないことがあります(この場合、次のブラケット撮影は、新たに1枚目から始まります)。
●フィルムの終端になると撮影は自動で停止しますので、フィルムの残り枚数に気を付けて撮影してください。特に、撮影枚数を多く設定し、カスタム設定でブラケットの撮影順を【露出アンダー ➜ 適正露出 ➜ 露出オーバー】に変更している場合などは、適正露出のコマまで撮影されないことがあります。
●フラッシュが発光するときは、フラッシュブラケットになります(79ページ参照)。
●ピントと基準の露出値(±0)は、1枚目を撮影するときに固定されます。
●露出補正(74ページ参照)をかけると、基準の露出値(±0)もそれに応じて変わります。

フラッシュを使った露出ずらし撮影（フラッシュブラケット）

内蔵フラッシュまたは別売のプログラムフラッシュを使ってフラッシュ撮影するとき、フラッシュの光量を段階的に変化させることができます（フラッシュブラケット）。フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光の届く主被写体だけの露出ずらし撮影ができます。
設定できるブラケット段数と撮影枚数は、定常光のブラケット（露出ずらし）撮影の場合と同じで、以下のとおりです。

ブラケット段数	0.3段、0.5段、1.0段 のいずれか
撮影枚数	3枚、5枚、7枚 のいずれか

撮影は、【適正露出（±0）➜ 露出アンダー ➜ 露出オーバー】の順で行われます。

☞ **撮影順を、【露出アンダー ➜ 適正露出（±0）➜ 露出オーバー】の順に変更することもできます。詳しくは102、103ページ「カメラの機能をお好みの状態に変更できます（カスタム設定）」の箇所をご覧ください。**

1 内蔵フラッシュを持ち上げます。または、カメラに取り付けたプログラムフラッシュの電源をONにします。

- **内蔵フラッシュが下がっているとき、またはプログラムフラッシュの電源がOFFのときは、定常光の露出ずらし（ブラケット）撮影になります。**

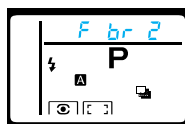
2 77ページから78ページ、**1**から**4**の手順にしたがって、ブラケット段数/撮影枚数を設定します。

（次ページへ続く）

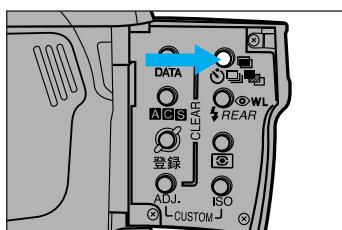
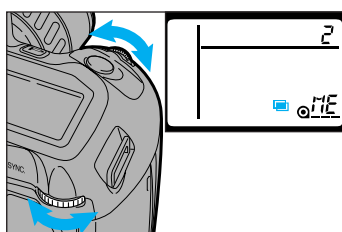
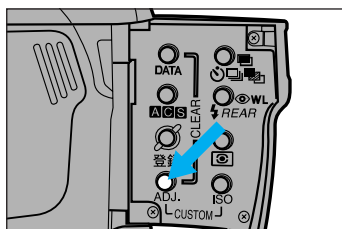
フラッシュを使った露出ずらし撮影

3 フラッシュ充電完了の表示を待ってから、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

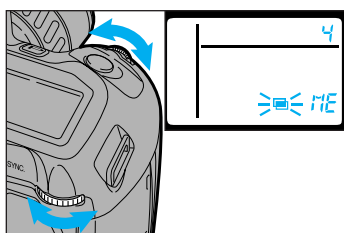
4 上記**3**の操作を、設定した撮影枚数分、繰り返します。

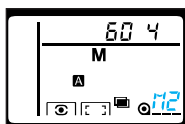
定常光の（フラッシュなしの）ブラケット（77ページ参照）の場合と違って、1コマづつ、撮影枚数分だけシャッターを切る操作になります。

- **フラッシュブラケット時は、シャッターボタンから指を離したとき、ボディ表示部に次の撮影がフラッシュブラケットの何コマ目であるかが表示されます。**
- **フラッシュブラケット時は、フラッシュは強制発光になります。**
- **フラッシュブラケット撮影時は1枚ずつフラッシュ光量が変化します。ただし、プログラムフラッシュ5400HS/5400Xi/5200iでMモードマニュアルフラッシュ撮影する場合は、絞り値が変化します。**
- **フラッシュブラケットを途中で（設定枚数分を撮り終える前に）解除するには、メインスイッチをLOCK位置にするか、内蔵フラッシュを押し下げてください。**
- **外付けのプログラムフラッシュでフラッシュブラケットする場合は、途中で（設定枚数分を撮り終える前に）プログラムフラッシュを取り外したり、プログラムフラッシュの電源を切ったりしないでください。ブラケットの残りコマ数の露出がすべてアンダーになる可能性があります。**
- **このカメラのシンクロターミナルや縦位置コントロールグリップVC-700のシンクロターミナルを通して、外部フラッシュで撮影するときは、フラッシュブラケットは使用できません。**

多重露光

フィルムの1コマに、最高9回までの露光をすることができます。

1 グリップドアを開けて、セルフタイマー/巻き上げモードボタンを押します。

2 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に▣を表示させます。

3 グリップドアを開けて、アジャストボタン(ADJ.)を押します。

●▣が点滅して、数値を変更できることをお知らせします。

(次ページへ続く)

4 前または後ダイヤルを回して、多重露光の回数を設定します。

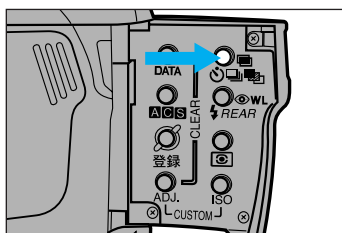
●2〜9（回）のいずれかを選びます。
●設定したら、シャッターボタンを半押しします。

5 シャッターボタンを押して撮影します。

●1回目の露光が行なわれ、フィルムカウンターにM2と表示されます。フィルムは巻き上げられません。

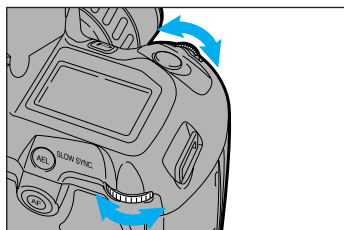
6 引き続き、シャッターボタンを押して撮影します。

●操作4で設定した回数分の露光が行なわれると、フィルムが次のコマへ巻き上げられ、フィルムカウンターは通常のコマ数表示にもどります。

<多重露光の途中で、多重露光の設定を解除したいときは>

設定回数分の露光を行なう前に多重露光を解除したい場合は、次の操作をします。

1 グリップドアを開けて、セルフタイマー/巻き上げモードボタンを押します。

（右上へ続く）

（左下からの続き）

2 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に以外の記号を表示させ、シャッターボタンを半押しします。

- **フィルムが次のコマへ巻き上げられ、フィルムカウンターは通常のコマ数表示にもどります。**

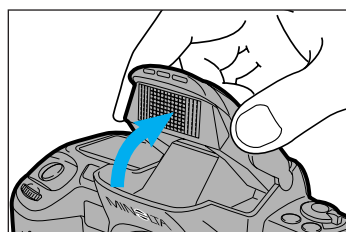
- **多重露光撮影では、背景や被写体の状況によってはあらかじめ露出補正しておく必要があります。**
- **ネガフィルムで多重露光撮影した場合は、その旨を店頭で申し出ないとプリントされないことがあります。**
- **設定回数分の露光を行なう前にカメラの電池を抜くと、多重露光は解除されますが、フィルムは次のコマへ巻き上げられません。電池を入れ直して、再度多重露光に設定すると、多重露光撮影を続けることができます。なお、通常の撮影を続ける場合は、フィルムを1コマ空送りしてからにしてください。**

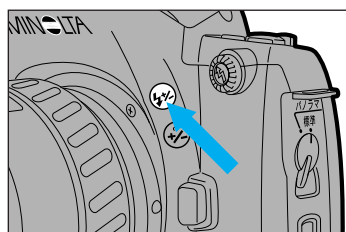
測光インジケーターの表示内容

露出モード	カメラの状態
P/A/Sモード設定時および撮影シーンセレクターの各モード設定時	**14分割ハニカムパターン／中央重点的平均／スポットの各測光方式で、露出補正値設定時**
	14分割ハニカムパターン／中央重点的平均／スポットの各測光方式で、AEロックボタンを押している間（AEロックの機能を働かせている間）
Mモード設定時	

指標の表示内容	測光インジケーター
撮影者が設定した露出補正値を表示します。 （74ページ参照。露出補正値を設定していないとき（値が0.0のとき）は、指標は0の上に表示されます。）	250　5.6 −2・1・0・1・2+ 「1段アンダー」の露出補正値が設定されていることを表しています。
AEロックボタンを押して（AEロックの機能を働かせて）固定したときの測光値を基準値（0）として、構図を変えた後のスポット測光フレーム内の測光値の、基準値との差を表示します。 （76ページ参照。）	250 AEL 5.6 −2・1・0・1・2+ スポット測光フレーム内の測光値は、基準値より1.5段オーバーであることを表しています。
カメラがそのときの測光方式に基づいて測光した露出値を基準値（0）として、撮影者が設定した絞り値とシャッター速度による露出値の、基準値との差を表示します。（メータードマニュアル表示。59ページ参照。）	125　6.7 −2・1・0・1・2+ 撮影者の設定した絞り値とシャッター速度による露出値は、基準値より1.5段アンダーであることを表しています。

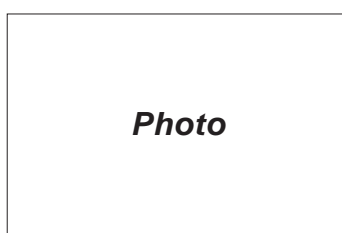
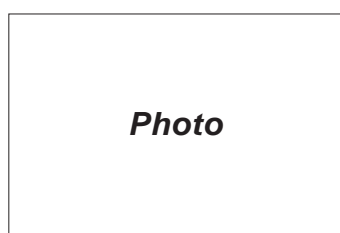
逆光でのフラッシュ撮影（日中シンクロ撮影）

写したい人物に比べて背景が非常に明るい逆光などの場合、そのまま撮影すると背景が白くとんでしまいがちです。そのような場合、フラッシュ撮影をすると人物にフラッシュ光を補って明るさのバランスをとり、人物と背景の両方をきれいに写すことができます。

内蔵フラッシュを持ち上げていると、フラッシュが必ず発光し、日中シンクロ撮影になります。

●**Aモード／Sモードでは、背景の明るさや設定した絞り値/シャッター速度によっては、露出オーバーになることがあります。その場合、ファインダー内のシャッター速度/絞り値が点滅してお知らせします。**

「カスタム設定」で「Pモード時・内蔵フラッシュを持ち上げているときは、フラッシュは必要に応じて自動発光」に設定している場合は、ファインダー内に⚡が点灯していることを確認してから撮影してください。
⚡が点灯しないときに日中シンクロ撮影したい場合は、フラッシュ調光補正ボタンを押しながら撮影してください。

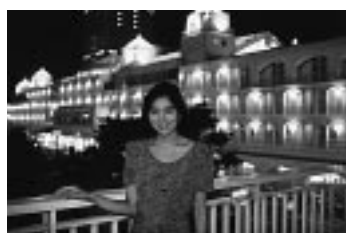
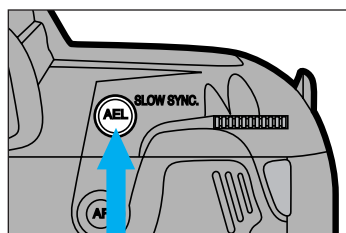
※ハイスピードシンクロ(HSS)撮影をするには、別売のプログラムフラッシュ5400HSが必要です。

従来の日中シンクロ撮影

Photo

ハイスピードシンクロ撮影

別売のプログラムフラッシュ5400HSをこのカメラに取り付けて、5400HSをスタンダードモード(HSSマークが表示されている状態)にします。すると、フラッシュ同調シャッター速度の制限がなくなり、カメラの持つシャッター速度全域(30秒〜1/8000秒)でフラッシュ撮影ができるようになります。その結果、絞り値の選択幅が広がりますので、日中シンクロ撮影でも絞りを開けて背景をぼかし、人物が浮き上がって見えるポートレートらしい写真を撮ることができます。
またAモードで日中シンクロ撮影するとき、背景が非常に明るくて露出オーバーとなるようなシーンでも、高速シャッターを使って適正露出に描写することができま

●ハイスピードシンクロ撮影となるときは、ボディ表示部 および ファインダー内にが点灯します。
●ハイスピードシンクロ撮影のときも、フラッシュブラケットが使用できます。
●ハイスピードシンクロ撮影となるときは、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がプログラムフラッシュ5400HSの液晶表示部に表示されている距離の範囲内にあるかどうか確認してください。
●蛍光灯下で撮影するとき、またはファインダー内に測光範囲外の警告表示が出るときは、適正露出が得られないことがありますので、1/200秒より高速のシャッター速度にしないでください。
●ハイスピードシンクロ撮影となるときは、プレビュー(絞り込み)ボタンを押している間はシャッターが切れません。
詳しい操作手順は、プログラムフラッシュ5400HSの使用説明書をご覧ください。

夜景を背景にしたフラッシュ撮影（スローシンクロ撮影）

夜景を背景にして記念撮影する場合など、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写しだされますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合、スローシンクロ撮影（シャッター速度の遅いフラッシュ撮影）をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

Pモード、Aモードでは次のようにしてスローシンクロ撮影ができます。

ファインダー内にが点灯しているとき、AEロックボタンを押しながら撮影します。

●シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。

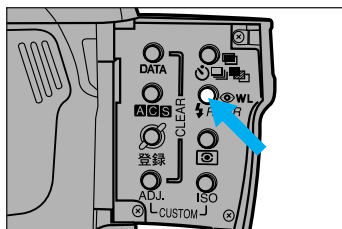
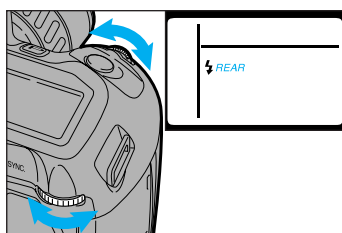
「カスタム設定」でAEロックボタンの操作方法を変更しているとき（AEロックボタンから指を離しても、AEロックの機能（働き）が残るよう設定を変更しているとき）はご注意ください。ファインダー内にAELが点灯している間はスローシンクロ撮影になります。
通常のフラッシュ撮影を行なうには、もう一度AEロックボタンを押してAEロックを解除するか、AEロックボタンの操作方法を通常の状態（AEロックボタンを押している間だけAEロックが働き、ボタンから指を離すと解除される）にしてください（102、103ページ参照）。

※撮影シーンセレクターの「夜景ポートレート」（45ページ参照）を使うと、夜景を背景にした記念写真を簡単に撮ることができます。

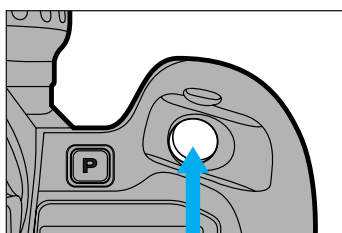
後幕シンクロ撮影

通常のフラッシュ撮影

後幕シンクロ撮影

通常フラッシュは、シャッターの第一幕（先幕）の走行直後に発光します。フラッシュ発光後に定常光による露光が行われるため、長秒時のフラッシュ撮影では、光の流れなどが不自然に写ることがあります。
後幕シンクロでは、シャッターの後幕（第二幕）走行直前にフラッシュを発光させます。動いている被写体を低速シャッター速度でフラッシュ撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写でき、効果的です。

1 グリップドアを開けて、フラッシュモード選択ボタンを押します。

2 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に *REAR* を表示させ、シャッターボタンを半押しします。

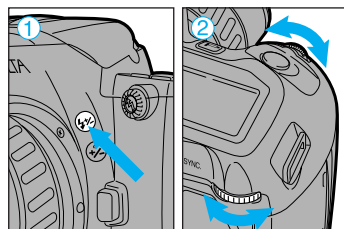
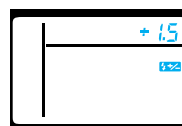
（次ページへ続く）

後幕シンクロ撮影

3 シャッターボタンを押して撮影します。

●**後幕シンクロは、低速シャッターで動きのある被写体を撮影する場合に使用すると、より効果を発揮します。したがって、**シャッター速度が1/90秒より高速の場合、効果がほとんど得られませんので、後幕シンクロに設定していても通常のフラッシュ制御になります(このとき、ボディ表示部の *REAR* は、消えずに点灯したままになります)。

●**後幕シンクロ設定時は、赤目軽減プリ発光、ハイスピードシンクロ(HSS)撮影、ワイヤレスフラッシュ撮影(92ページ参照)はできません。**

フラッシュの光量を補正できます

このカメラは、内蔵フラッシュまたは別売のプログラムフラッシュを使ってフラッシュ撮影するとき、フラッシュの光の量だけを調節することができます（フラッシュ調光補正）。そのため、フラッシュ光の届かない背景の露出を変えることなく、フラッシュ光が届く主被写体だけの描写を補正することができます。

①フラッシュ調光補正ボタンを押しながら、②前または後ダイヤルを回して、希望の補正値を設定します。設定が終わればボタンを離します。

- −3.0から+3.0まで、0.5段ごとに設定できます。
- 設定後は、ボディ表示部にが表示されます。
- 調光補正を解除する場合は、上記と同じ操作で補正値を0.0にしてください。
- プログラムフラッシュを取り付けてフラッシュ撮影するときは、プログラムフラッシュの光量を補正します。ただしTTL調光ではないマニュアルフラッシュ撮影の場合は、調光補正値に関係なく、設定された光量でフル発光します。
- フラッシュ光も定常光も含めた画面全体の露出レベルを補正するときは、露出補正（74ページ参照）の操作をしてください（このときフラッシュ調光補正も設定していると、フラッシュ光に対しては二重に補正がかかることになります）。

☞ **設定した調光補正値をカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼びだすことができます。詳しくは本書99ページ「登録機能」の箇所をご覧ください。**

ワイヤレスフラッシュ撮影

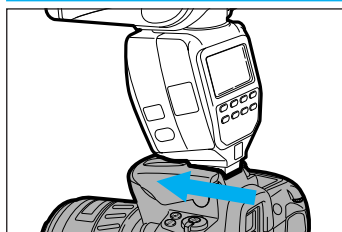
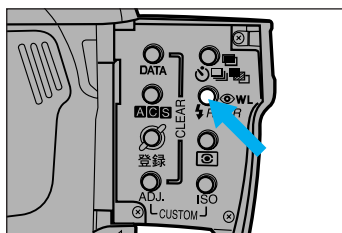
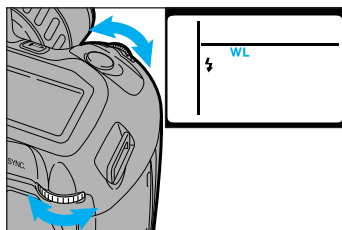
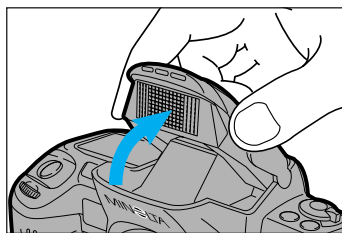
ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売のプログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xiのいずれかが必要です。

写真①

写真②

写真③

フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な印象を受ける写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから離して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます（写真②）。このようなフラッシュをカメラから離した撮影をオフカメラフラッシュ撮影と呼びます。
写真③はカメラの内蔵フラッシュと、オフカメラフラッシュの光量を１：２の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。このような２灯以上のフラッシュの光量に比を付けた撮影を、光量比制御撮影と呼びます。
一眼レフカメラではこのオフカメラフラッシュ撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続する必要がありました。このカメラは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行ないます。このフラッシュ撮影をワイヤレス（＝コードのない）フラッシュ撮影と呼びます。
もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

<ワイヤレスフラッシュの設定方法>

1 フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2 グリップドアを開けて、フラッシュモード選択ボタンを押します。

3 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部にWLを表示させ、シャッターボタンを半押しします。

4 フラッシュをカメラから取り外し、内蔵フラッシュを持ち上げます。

ワイヤレスフラッシュ撮影

<撮影方法>

1 カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として5400HSや5400xi、3500xiを発光させます。信号が正しく受け取れるよう以下のことに気を付けてください。

●室内など暗いところで撮影してください。

●以下の図表は3500xiを使用するときのものです。その他のフラッシュを使われる場合は、各フラッシュの使用説明書をお読みください。

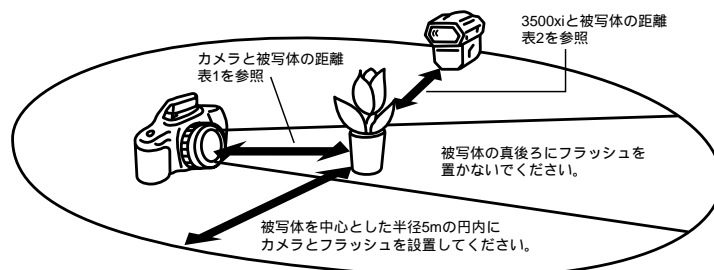
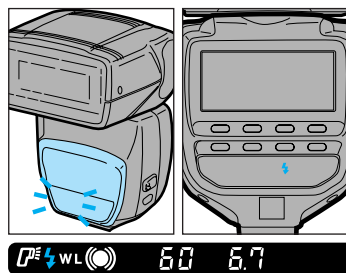



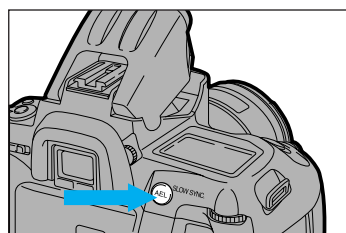
表1：カメラと被写体との距離（単位メートル）

	フィルム感度	
絞り値	ISO100	ISO400
2	2.0-5.0	4.0-5.0
2.8	1.4-5.0	2.8-5.0
4	1.0-5.0	2.0-5.0
5.6	1.0-5.0 (1.0-4.0)	1.4-5.0
8	1.0-5.0 (1.0-2.8)	1.0-5.0

（　）は光量比制御撮影の場合の被写体とカメラの距離です。

表2：フラッシュ3500xiと被写体との距離（単位メートル）

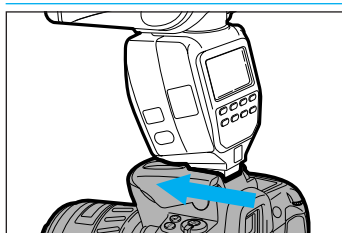
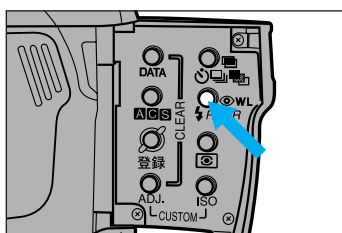
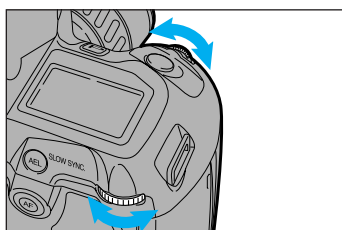
	フィルム感度	
絞り値	ISO100	ISO400
2	1.4-5.0	2.8-5.0
2.8	1.0-5.0	2.0-5.0
4	0.7-4.5	1.4-5.0
5.6	0.5-3.2	1.0-5.0
8	0.35-2.25	0.7-4.5

2 プログラムフラッシュとカメラの内蔵フラッシュの充電完了を確認します。

●プログラムフラッシュは、背面の ϟ が点灯し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。
●内蔵フラッシュは、ファインダー内の ϟ が点灯すると充電完了です。

3 カメラのAEロックボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します(テスト発光)。

4 もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

※上記４の操作のとき、カメラのフラッシュ調光補正ボタンを押しながら撮影すると、カメラの内蔵フラッシュも発光し、プログラムフラッシュと内蔵フラッシュの光量比を２：１にコントロールする「光量比制御撮影」ができます。

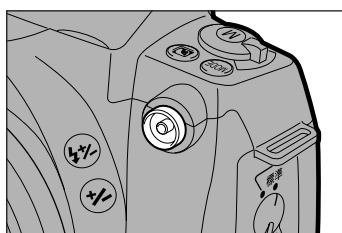
「カスタム設定」でAEロックボタンの操作方法を変更しているとき(AEロックボタンから指を離しても、AEロックの機能(働き)が残るよう設定を変更しているとき)はご注意ください。ファインダー内にAELが点灯している間はスローシンクロ撮影になります。また、テスト発光のたびに、AEロック状態とそうでない状態とが切り替わります。ワイヤレスフラッシュ撮影時は、AEロックボタンの操作方法を通常の状態(AEロックボタンを押している間だけAEロックが働き、ボタンから指を離すと解除される)にもどしておくとよいでしょう(102、103ページ参照)。

<ワイヤレスフラッシュの解除>

1 フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2 グリップドアを開けて、フラッシュモード選択ボタンを押します。

3 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部のWLを消し、シャッターボタンを半押しします。

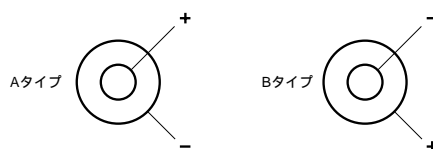
<ワイヤレスフラッシュリモコンを使ったワイヤレスフラッシュ撮影>

内蔵フラッシュの代わりに、別売のワイヤレスフラッシュリモコンを使っても同様のワイヤレスフラッシュ撮影ができます。
詳しくはワイヤレスフラッシュリモコンの使用説明書をご覧ください。
ワイヤレスフラッシュリモコンはα-9Xiのアクセサリーとして発売された商品ですが、このカメラに取り付けても使用できます。操作方法はα-9Xiに取り付けた場合と同様です。

シンクロターミナル

このカメラにはシンクロターミナルがついていますので、シンクロコード付きフラッシュを使った撮影ができます。

シンクロターミナルを使ってフラッシュ撮影する場合は、カメラの露出モードをMモードにして、シャッター速度を1/200秒以下(低速側)に設定してください。

●シンクロ端子の極性が逆のフラッシュ* は使用できません。このようなフラッシュをこのカメラに接続しても、フラッシュは発光しません。これらのフラッシュをお使いになる方は、裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

***フラッシュのシンクロ端子の極性は、ほとんどが下のAタイプですが、中にはBタイプのものがあります。このBタイプが、「逆極性」のフラッシュです。**

●フラッシュによっては発光しないことがあります(トリガー電圧を極端に低くしてあるフラッシュなど)。そのようなフラッシュをお使いになる場合は、裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにご相談ください。

●シンクロコードをシンクロターミナルに接続するときは、シンクロコードにつながれたフラッシュの電源をOFFにしてください。電源ONのままですと、シンクロコードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。

●縦位置コントロールグリップVC-700を取り付けているときは、カメラボディ側/縦位置コントロールグリップ側いずれのシンクロターミナルも使用できます。

より有効にご活用いただくために

ここでは、多彩な撮影を楽しむためのさまざまな機能について説明しています。ぜひご一読いただき、このカメラをより有効にご活用ください。

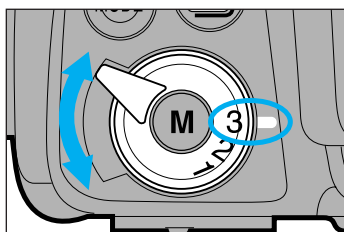
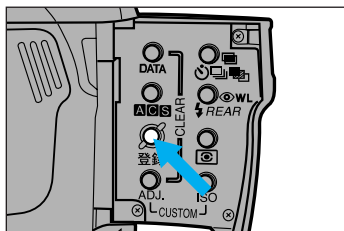
カメラの状態をあらかじめカメラに登録できます（登録機能）

撮影目的や撮影意図に応じたカメラの状態を、あらかじめカメラに登録することができます。一度登録しておけば、あとは登録呼び出しボタンを押すだけで、カメラをその状態に設定できます。このカメラは、3通りの違った状態を登録できます。

登録させることができる項目とその内容 または 範囲

露出モード または 撮影シーンセレクター	P／A／S／M／ポートレート（）／記念撮影・風景（）／クローズアップ（）／スポーツ（）／夜景ポートレート・夜景（）の各モードのいずれかひとつ
絞り値（レンズによる）	F1.0からF64の範囲内の値
シャッター速度	30秒〜1/8000秒の範囲内の値 または バルブ
オートフォーカスモード	AF制御自動切り替え（A）／コンティニュアスAF（C）／ワンショットAF（S）のいずれかひとつ
巻き上げモード	1コマ（）／連続（）／多重露光（）／ブラケット（）／セルフタイマー（）のいずれかひとつ
フラッシュモード	通常フラッシュ（）／赤目軽減プリ発光あり（）／後幕シンクロ（REAR）／ワイヤレスフラッシュ（WL）のいずれかひとつ
露出補正値	±3.0段の範囲内で、0.5段ごと
フラッシュ調光補正値	±3.0段の範囲内で、0.5段ごと
測光方式	14分割ハニカムパターン測光（）／中央重点的平均測光（）／スポット測光（●）のいずれかひとつ
フォーカスフレーム	ワイドフォーカスフレーム または 4カ所のローカルフォーカスフレームのいずれかひとつ
AFP／RP	オートフォーカス優先（AFP）／レリーズ優先（RP）のいずれかひとつ

登録のしかた

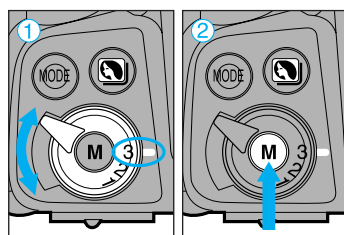
1 99ページの各項目について、登録したい状態にカメラを設定します。

2 登録番号選択レバーを、希望の登録番号の位置に合わせます。

3 グリップドアを開け、登録ボタンを押します。

●ボディ表示部にMEMo rYと表示され、登録されたことをお知らせします。また、今回登録される項目がボディ表示部に表示されます。

4 登録されたことを確認したら、登録ボタンから指を離します。

左図は、Aモード／ワンショットAF／1コマ巻き上げ／赤目軽減プリ発光あり／露出補正値設定／フラッシュ調光補正値設定／中央重点的平均測光／ワイドフォーカスフレーム／レリーズ優先(RP)を登録したときのボディ表示部です。

- **このとき、絞り値、シャッター速度、露出補正値、フラッシュ調光補正値の各数値については、設定されている値は表示されません。**
- **露出補正値、フラッシュ調光補正値を設定していないとき(値を0.0にしているとき)は、 や は表示されません。**
- **露出モードとしてAモードだけを登録する、という使い方もできますが、この場合、露出モード以外の項目については、その時のカメラの状態がそのまま自動的に登録されます。**
- **一度登録した内容は、メインスイッチをLOCKにしても、電池を抜いても保持されています。**
- **同じ登録番号に別の状態を登録したいときは、カメラをその状態に設定し直して、前ページ**2、3**の操作をしてください。前回登録されていた内容は消去され、新たな状態が登録されます。**
- **登録した内容をすべて消去したいときは、**登録ボタンを押したままメインスイッチをLOCKからONにしてください。**登録内容はすべて削除され、登録呼び出しボタンを押してもボディ表示部は何も変化しません。**

呼び出し方

①登録番号選択レバーを、登録した番号の位置に合わせ、②登録呼び出しボタンを押します。

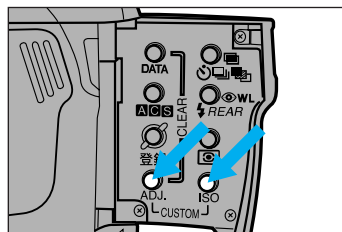
- **登録しておいた状態にカメラが設定されます。**

カメラの機能をお好みの状態に変更できます（カスタム設定）

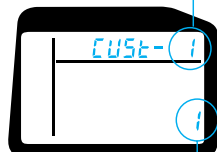
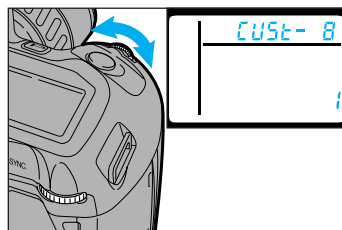
以下の16通りの各「項目」について、「設定内容」に示してある2つ または 3つ

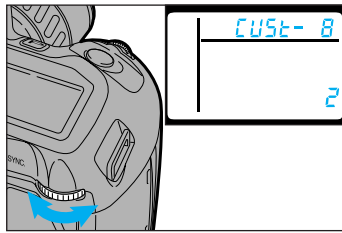
項目番号	項目内容
1	**オートフォーカス優先／レリーズ優先**
2	**自動巻き戻し機能**
3	**巻き戻したフィルムの先端**
4	**フィルム感度変更記憶機能**
5	**P（プログラム）モード時のフラッシュの機能**
6	**フォーカスホールドボタンの機能 （フォーカスホールドボタンを備えたレンズを使用時）**
7	**アイセンサーの作動**
8	**フィルムカウンター機能**
9	**AFフレーム選択ボタンの機能**
10	**AEロックボタンの操作方法**
11	**オートブラケット、フラッシュブラケット の撮影順序**
12	**フィルム巻き戻し速度**
13	**ボディ表示部の、測光値（シャッター速度／絞り値）表示保持時間**
14	**ピントを合わせたローカルフォーカスフレームの表示**
15	**アイスタートスイッチの機能**
16	**内蔵フラッシュのズーム機能**

の選択肢の中からどれかひとつを選んで、その状態に変更・設定できます。

設定番号	設定内容
1	AF優先（AFP）
2	レリーズ優先（RP）
1	あり
2	なし
1	残さない（パトローネ内に巻き込む）
2	残す
1	あり
2	なし
1	フラッシュを持ち上げていれば（電源ONなら）、必ず発光
2	フラッシュを持ち上げていれば（電源ONなら）、必要な時に自動発光
1	フォーカスホールド機能
2	フォーカスフレームを、中央のローカルフォーカスフレームに固定
3	コンティニュアスAFに切り替え
1	グリップを握ると作動
2	メインスイッチONで作動
1	順算
2	逆算
1	ワイドフォーカスフレーム←→ローカルフォーカスフレームの切り替え
2	ボタンを押している間、中央のローカルフォーカスフレームを選択
1	ボタンを押している間だけAEロック
2	一度ボタンを押すとAEロック、もう一度ボタンを押すと解除
1	適正露出→露出アンダー→露出オーバー（適→−→＋）の順
2	露出アンダー→適正露出→露出オーバー（−→適→＋）の順
1	低速（サイレント）巻き戻し
2	高速巻き戻し
1	5秒
2	10秒
3	30秒
1	AFフレーム選択ボタンを押したときにのみ表示
2	フォーカスロックされたときは、常に表示
1	アイスタート機能のON←→OFF切り替え
2	ダイヤル機能有効←→無効の切り替え（アイスタートは常にON）
3	ダイヤル機能有効←→無効の切り替え（アイスタートは常にOFF）
1	ズームレンズの焦点距離に連動
2	ワイド端で固定

機能の設定・変更方法

1 グリップドアを開け、アジャスト(ADJ.)ボタンを押したまま、フィルム感度設定ボタンを押します。

- **片手では操作しづらいので、<u>カメラを机の上など安定した場所に置いて、両手の指で操作されることをおすすめします</u>。**
- **機能の設定・変更ができる状態になり、前ページ設定内容一覧表の「項目番号」と「設定番号」が、ボディ表示部に表示されます。**

2 前ダイヤルを回して、設定・変更したい機能の「項目番号」を選びます。

- **左の例は、「項目番号」8番【フィルムカウンター機能】を選んだ場合のボディ表示です。**

3 後ダイヤルを回して、設定したい内容の「設定番号」を選びます。

●**左の例は、「設定番号」2番【逆算（カウンター）】を選んだ場合のボディ表示です。**

4 機能を設定・変更したい「項目番号」が他にもある場合は、**2**、**3**の操作を繰り返します。

5 設定・変更が終了したら、シャッターボタンを半押しします。

●**設定した内容はカメラの電源を切っても、電池を抜いても、保持されています。**

●**オートフォーカス優先／レリーズ優先（項目番号「1」）で【レリーズ優先】（設定番号「2」）に設定しても、プログラムセットボタンを押すと、オートフォーカス優先にもどります（123ページ参照）。**

●**アイスタートスイッチの機能（項目番号「15」）を【ダイヤル機能無効←→有効の切り替え】（設定番号「2」または「3」）に設定したときは、**
　アイスタートスイッチON時　→ダイヤル機能無効
　アイスタートスイッチOFF時→ダイヤル機能有効
となります。なおダイヤル機能を無効にすると、単に絞り値やシャッター速度が変更できなくなるだけではなく、複合操作（あるボタンを押したままダイヤルを回す操作。たとえば、露出補正値の設定や露出モードの変更など）や、ダイヤルでどれかひとつを選ぶ操作（たとえば、フラッシュモードの選択や測光方式の選択など）もできなくなり、カメラ状態の不用意な切り替わりを防ぐことができます。

●カスタム設定を初期状態にもどす（すべての項目番号について設定番号を「1」にする）には、①グリップドア内のアジャスト（ADJ.）ボタンを押したまま②メインスイッチをLOCKからONにします。ボディ表示部に CLr が点滅して初期状態にもどったことをお知らせしますので、アジャスト（ADJ.）ボタンから指を離します。

撮影時のデータをカメラに記憶します(撮影データメモリー機能)

撮影時の各種データをカメラに記憶させることができます。記憶させたデータは、カメラの液晶表示(ボディ表示部)で簡単に読み出せます。

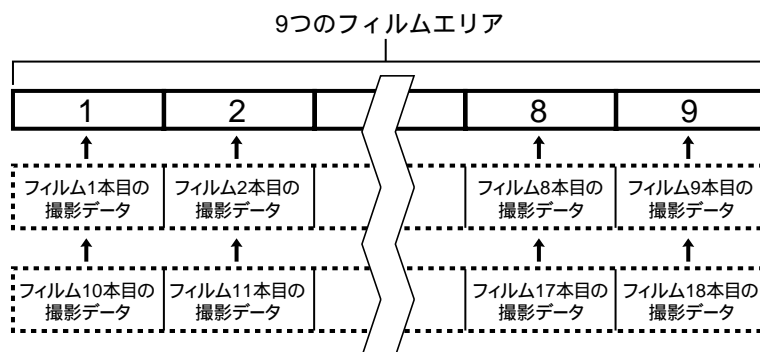
撮影データメモリー機能の働き

機能が働くように設定して、普通に撮影するだけで、以下の撮影データが自動的に記憶されます。

絞り値／シャッター速度 露出補正値／フラッシュ調光補正値*／レンズの焦点距離 フラッシュ発光の有無／ブラケット撮影の有無

*フラッシュ調光補正値は、値が設定されていて かつ フラッシュ撮影された場合のみ、記憶されます。

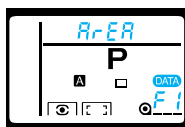
フィルムエリア

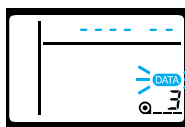
カメラが撮影データを記憶しておく場所は9つに分かれており、それぞれの場所を「フィルムエリア」と呼びます。1つのフィルムエリアにフィルム1本分(フィルム1本分につき、最大40コマ)のデータが記憶されます。

フィルムを入れ替えるごとに、1〜9のフィルムエリアに順番に撮影データが記憶されていきます。10本目のフィルムを入れると、撮影データの記憶される場所はフィルムエリア1にもどります（このとき、10本目の撮影データがフィルムエリア1に上書きされる旨の警告表示が出ます。下記参照）。以下、同様に11本目以降のデータはフィルムエリア2以降に記憶されていきます。

●フィルムエリアの切り替えは、フィルムを入れ替えたときにのみ自動的に行われます。手動で切り替えたり、撮影データを記憶させたいフィルムエリアを任意に選ぶことはできません。

●記憶されたデータは、一度にすべて消去することができます（113ページ参照）。

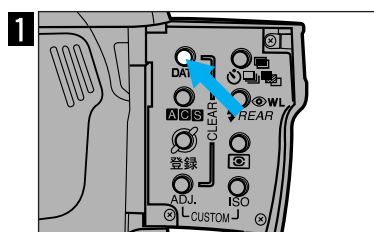
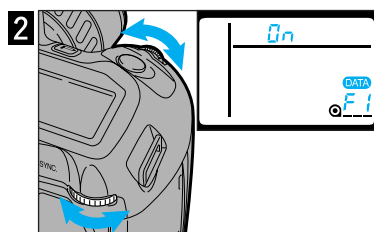
10本目のフィルムを入れると（9本分の撮影が終わると）……

記憶できるフィルムエリアが一杯になっていますので、撮影データを読み出してください（110ページ参照）。
そのまま続けて10本目の撮影をすると、10本目の撮影データは、1本目の撮影データに上書きされていきますので、誤って1本目のデータを消さないように、以下のような警告表示が出ます。

10本目の撮影データが、フィルムエリア1に記憶される（上書きされる）ことを示します。

●この警告表示が出るのは、データの記憶される場所がフィルムエリア9からフィルムエリア1にもどったときだけです。
●1本目のフィルムの撮影データに上書きしてもよい場合は、そのまま撮影を続けられます（1コマ目のシャッターを切ると、上の警告表示は消えます）。

※1本目のフィルムの撮影データに上書きした場合は、データを読み出すとき（110ページ参照）に、上書きした撮影データと、以前の古い撮影データとの境界で、「ーーーー ーー」が表示され、そのコマ以降のデータが古いデータであることをお知らせします（左図は、1本目のフィルムの撮影データに、10本目のフィルムの撮影データを2コマ分上書きした場合の表示です）。

撮影時のデータをカメラに記憶します（撮影データメモリー機能）

撮影データを記憶させるには

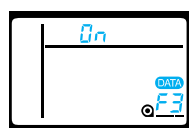
1

グリップドアを開け、撮影データメモリー（DATA）ボタンを押します。

2

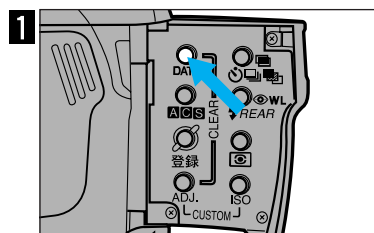
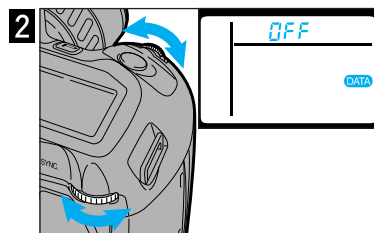
前または後ダイヤルを、グリップドア側へ1回回して、ボディ表示部にOnを表示させます。

●フィルムカウンターの箇所に、撮影データが記憶されるフィルムエリアが表示されます。

3 シャッターボタンを半押しします。

●ボディ表示部にDATAが表示され、撮影データがメモリー（記憶）されることをお知らせします。

※撮影中に撮影データメモリーボタンを押すと、何本目のフィルムのデータを記憶しているか（＝どのフィルムエリアにデータを記憶しているか）が表示されます。

フィルム3本目の場合（フィルムエリア3）

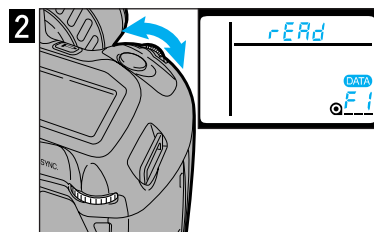
撮影データを記憶させないようにするには

1
グリップドアを開け、撮影データメモリー(DATA)ボタンを押します。

2
前または後ダイヤルを、内蔵フラッシュ側へ1回回して、ボディ表示部にOFFを表示させます。

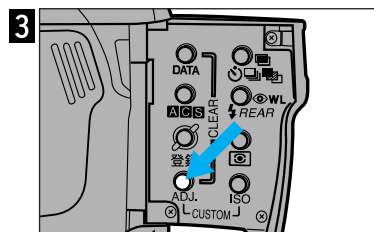
3 シャッターボタンを半押しします。

●ボディ表示部のDATAが消えます。

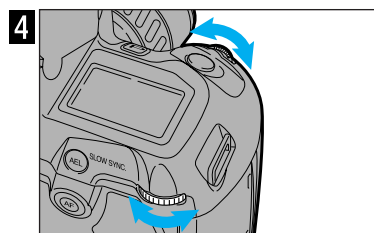
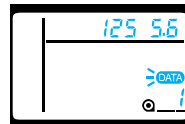
撮影データの読み出し

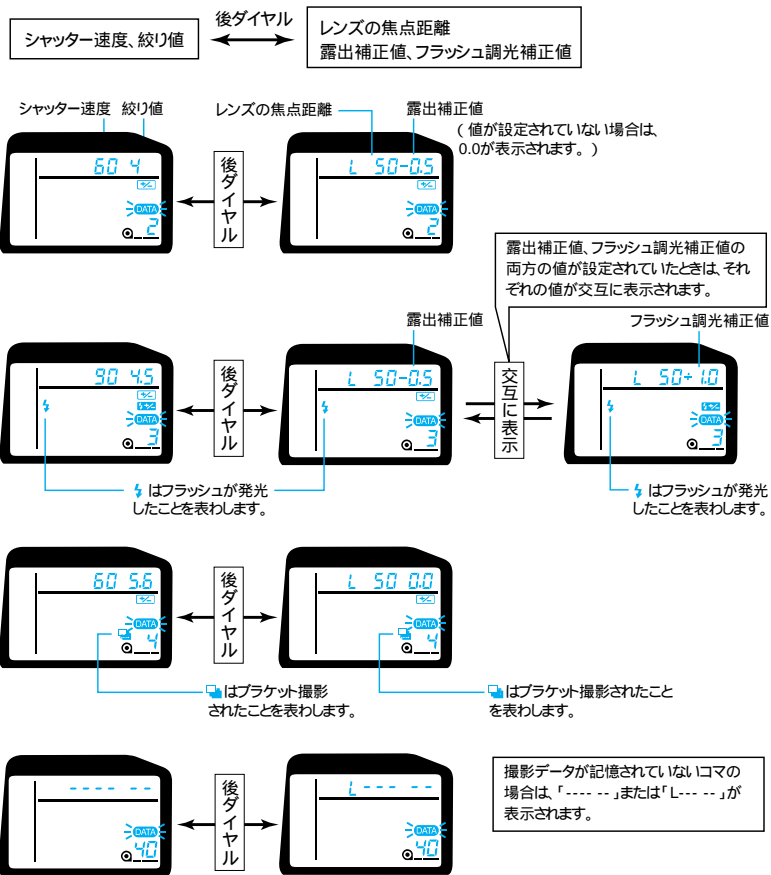
1 グリップドアを開け、撮影データメモリー(DATA)ボタンを押します。

2

前ダイヤルを回して、ボディ表示部にrEAdを表示させます。

3

グリップドアを開け、アジャスト(ADJ.)ボタンを押します。

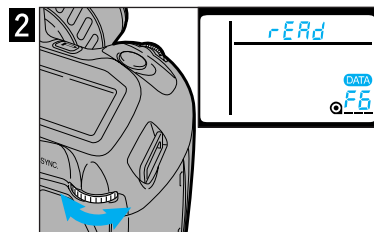
● **DATAが点滅し、1コマ目の撮影データ(シャッター速度と絞り値)が表示されます。**

4

前ダイヤルで、データを読み出したいコマ番号を選びます。
後ダイヤルで、表示されるデータを切り替えます。

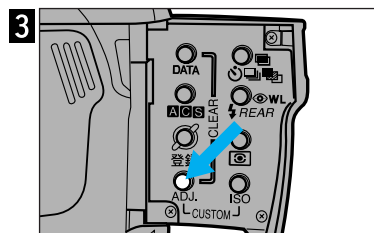
●前ダイヤルで、読み出したいコマ番号を選びます。
●後ダイヤルで、表示されるデータを切り替えます。

（次ページへ続く）

データを読み出すフィルムエリアの変更

1 (撮影データを読み出し中に)シャッターボタンを半押しします。

2

後ダイヤルを回して、データを読み出すフィルムエリアを選びます。

●**選んだフィルムエリアがフィルムカウンターのところに表示されます。**

3

グリップドア内の、アジャスト(ADJ.)ボタンを押します。

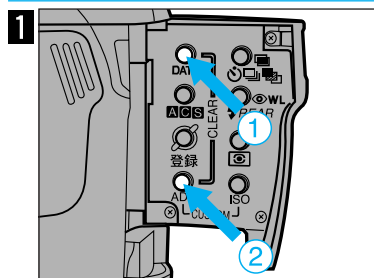
●**選んだフィルムエリアの、1コマ目の撮影データが表示されます。後は、110ページ、111ページ記載の手順にしたがってデータを読み出します。**

データ読み出しの終了

1 (撮影データを読み出し中に)シャッターボタンを半押しします。

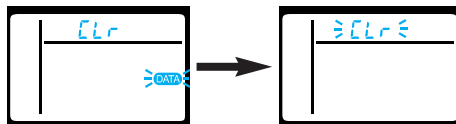
2 もう一度シャッターボタンを半押しすると、データの読み出しは終了し、ボディ表示部は通常の表示にもどりま

記憶されている撮影データをすべて消去する

1

グリップドアを開け、①撮影データメモリー（DATA）ボタンを押したまま、②アジャストボタン（ADJ.）を押します。

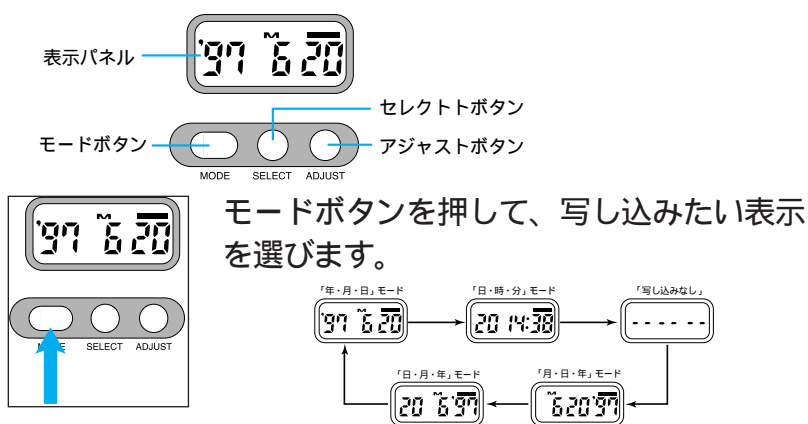
- **かならずDATAボタンを押したままADJ.ボタンを押してください。逆の順序で押しても撮影データを消去することはできません。**
- **ボディ表示部に CLr が現れます。また、DATA が点滅して、記憶されている撮影データが消去されることをお知らせします。**

2 もう一度、撮影データメモリー（DATA）ボタンを押します。

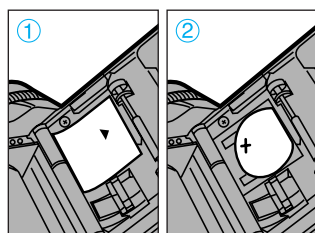
- **DATA の点滅が消え、記憶されている撮影データがすべて消去されます。**

- CLr の点滅中は、カメラの操作をしないでください。
- **任意のフィルムエリアの撮影データだけを消去することはできません。**

日付・時間を写し込むには

撮影時の日付や時間を写し込むことができます。このカメラには2019年までの日付が記憶されています。パノラマ写真にも写し込むことができます。

モードボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

●写し込み位置に明るい色（空や白い壁など）があると、写し込んだ文字が読みにくくなることがあります。

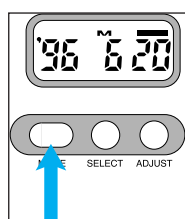
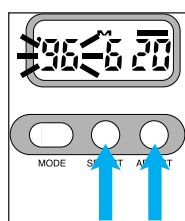
写し込み用電池の交換

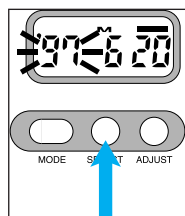
写し込んだ文字が薄くなってきたら電池を交換してください。CR2025を1個使用します。

裏ぶたを開けて、電池室のふたを▶の方向に押して開けます①。

古い電池を取り出し、新しい電池の＋側を上にして電池室に入れ②、ふたを閉めます。

●ふたを閉めるときは、右部を差し込んでから、左側へ押し込みます。

●写し込み用電池を交換した後は、日付・時間を修正してください。

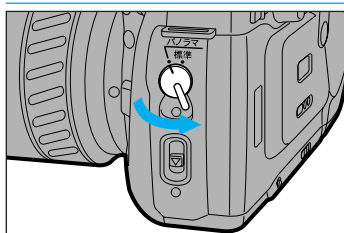
日付・時間の修正

1 モードボタンを押して、変更したい表示を選びます。

2 ①セレクトボタンを押して変更したい数字を点滅させ、②アジャストボタンを押して数字を変更します。

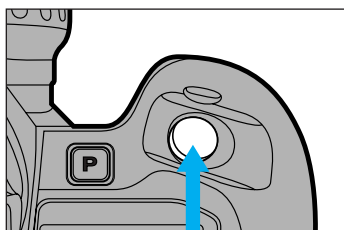
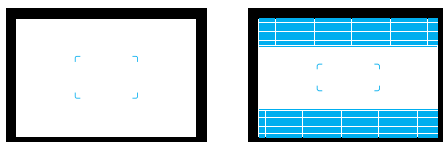
●修正中は、セレクトボタンを押すたびに、年→月→日、または、時→分→：(コロン) の順に表示が点滅します。
●アジャストボタンを押し続けると、数字は連続して変わります。
●秒を時報に合わせるには、：を点滅させ、時報に合わせてアジャストボタンを押します。

3 上記２の操作を繰り返して、変更が終了したら、点滅している数字がなくなり、「━」が点灯するまでセレクトボタンを押します。

●日付写し込み機能は0〜50℃の範囲でご使用ください。それ以外では正常に機能しないことがあります。
●コイン型電池は幼児やお子様の手の届かない場所に置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

パノラマ写真を撮ってみましょう

撮影の途中でも、標準撮影とパノラマ撮影を切り替えることができます。

パノラマへの切り替え

1 パノラマ切り替えレバーをパノラマ側にします。

●ファインダーがパノラマ用に切り替わります。

2 構図を決めて撮影します。

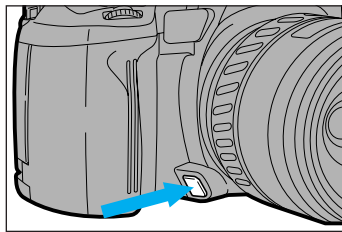
●標準撮影にもどすときは、パノラマ切り替えレバーを標準側にします。
●パノラマ切り替えレバーは止まるまで（レバーの指標 ▬ がきちんと ● を指すまで）確実に操作してください。
●パノラマ撮影するときは、画面の周辺に少し余裕を持たせてください。プリントされる範囲が、実際に撮影した画面よりもやや狭くなることがあります。
●広角レンズで撮影すると、パノラマらしさがよりいっそう効果的に表現されます。

●カメラを破損する恐れがありますので、パノラマアダプターは使用しないでください。

●パノラマ撮影したフィルムには、図のように上下に露光されない部分があります。

●パノラマ撮影してもフィルムの撮影枚数は変わりません。
●パノラマ写真の一般的なプリントサイズは、89㎜×254㎜です。
●パノラマ撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、「パノラマ仕上げ」または「パノラマプリント」と指定してください。通常仕上げまたは通常サイズでプリントされると、上下に黒い帯が写し込まれます。

絞り込み（プレビュー）

プレビュー（絞り込み）ボタンを押すと、撮影のときの絞りまで絞り込まれるので、撮影前におおよその被写体のボケ具合等を確認することができます。

プレビュー（絞り込み）ボタンを押します。

●押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。ピントと露出は固定されます。

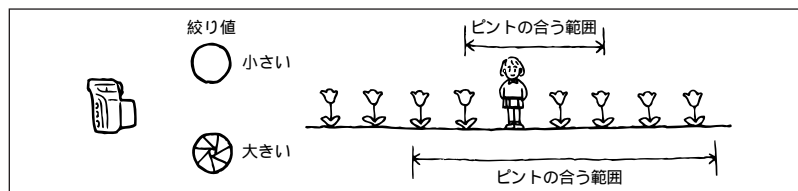
●プレビューボタンを押している間は、シャッターボタン以外のボタンを受け付けません（操作しても何も変化しません）。

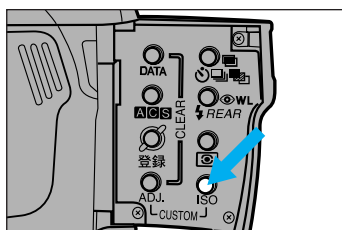
●プレビュー時には、アキュートマット（焦点板）の特性上、ファインダー中央部が陰ることがあります。

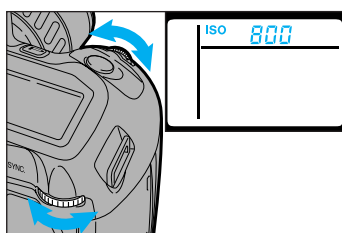
●ボタンを離すとプレビュー（絞り込み）は解除されます。このときミラーが動くため、一瞬ファインダー内の象が見えなくなります。

●プレビューボタンを押したとき、ピントが合っていなかった（フォーカス表示の ● が点滅、または、《 》が点灯する）場合は、シャッターが切れません。

●ハイスピードシンクロの制御になるとき（ボディ表示部、およびファインダー内に ⚡H が点灯するとき）は、プレビューボタンを押しているとシャッターが切れません。

ピントを合わせた被写体の前後には、実用上写真としてピントが合って写る範囲があり、これを「被写界深度」といいます。F1.4、2など絞り値が小さい（絞りが開放側になる）ほど被写界深度は浅く（ピントが合って写る範囲は狭く）、F22、32など絞り値が大きい（絞りが絞り込まれる）ほど被写界深度は深く（ピントが合って写る範囲は広く）なります。

フィルム感度の設定と変更

DXコードの付いていないフィルムをお使いの場合は、以下の要領でフィルムパッケージなどの記載されているフィルム感度をカメラに設定してください。また、増感撮影など、意図的にフィルム感度を変更する場合も以下の要領で行なってください（カメラにフィルムを入れた後に行なってください）。

1 グリップドアを開け、フィルム感度設定ボタンを押します。

●**現在のフィルム感度がボディ表示部に表示されます。**

2 前または後ダイヤルを回して、希望のフィルム感度を選びます。

●**設定可能なフィルム感度の範囲は、ISO6〜6400です。**

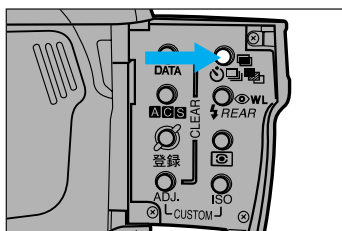
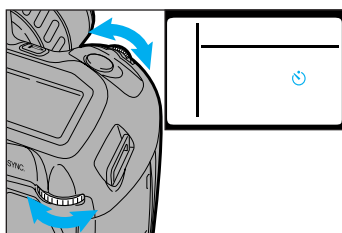
3 シャッターボタンを半押しします。

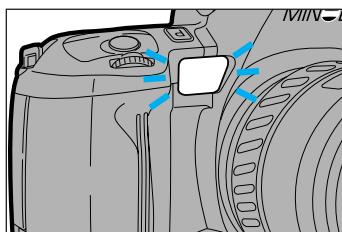
●**撮影中でも、フィルム感度設定ボタンを押せば、現在のフィルム感度を確認できます。**

<フィルム感度変更記憶機能>

このカメラは、フィルム感度を意図的に変更した場合、その後も同じ感度のフィルムを続けて使用すると、変更した感度を記憶し続けます。
たとえば、ISO400のフィルムをカメラに入れ、フィルム感度の設定を意図的にISO800に変更したとします。するとその後は、ISO400のフィルムを入れるとフィルム感度は自動的にISO800に設定されます。
☞ **「カメラの機能をお好みの状態に変更できます（カスタム設定）」で、この機能を働かせないようにすることができます。詳しくは、102、103ページをご覧ください。**

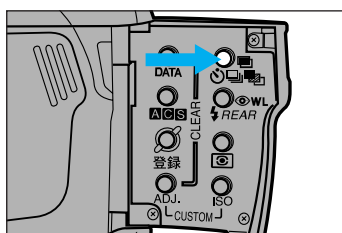
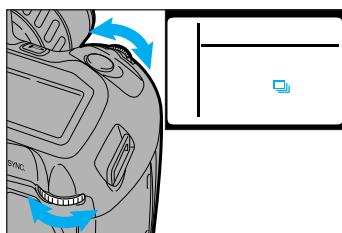
セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

1 グリップドアを開け、セルフタイマー/巻き上げモードボタンを押します。

2 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に⏲を表示させ、シャッターボタンを半押しします。

3 構図を決め、ピントを合わせてからシャッターボタンを押し込んで撮影します。

●セルフタイマー作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。
撮影のタイミングの約3秒前から点滅の間隔が短くなります。
●撮影後はセルフタイマーは解除されます。

●シャッターボタンを押し込む前にセルフタイマーを解除するには、上記1、2の操作で⏲以外の記号をボディ表示部に表示させるか、プログラムセットボタンを押します。
●作動中のセルフタイマーを止めるには、もう一度セルフタイマー/巻き上げモードボタンを押すか、メインスイッチをLOCKにします。

連続撮影

シャッターボタンを押し込んでいる間、1秒間に3コマの速さで連続して撮影されます。

1 グリップドアを開け、セルフタイマー/巻き上げモードボタンを押します。

2 前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に を表示させ、シャッターボタンを半押しします。

●カメラをオートフォーカス優先（AFP）に設定しているときは、ピントが合うまでシャッターは切れませんので、1秒間に3コマの速さで連続撮影できないことがあります。連続撮影の速さを優先したいときは、カメラをレリーズ優先（RP）に設定してください（70ページ参照）。

●カメラをレリーズ優先（RP）に設定すると、連続撮影中はオートフォーカスが動作しません。

●連続撮影中は、パワーズームはできません（AFズームXiレンズ、または、AFパワーズームレンズ使用時）。

こんなことも
知っておきましょう

ここでは、このカメラをお使いになる上で知っておいて欲しいことや、お使いになる際の注意事項について説明しています。
またこのカメラを末長くご愛用いただくためにも、128、129ページの「取り扱い上の注意」、130、131ページの「手入れと保管の仕方」はぜひお読みください。

ぜひ知っておきましょう

プログラムセットボタンの機能

プログラムセットボタンを押すと、カメラは最も基本的な状態(全自動)になります。

状態が変わるもの	ボタンを押した後の状態	参照ページ
露出モード	P(プログラム)モード	50、51
撮影シーンセレクター	P(プログラム)モード	50、51
ピント合わせ	オートフォーカス	25、66、67
フォーカスフレーム	ワイドフォーカスフレーム	25、66、67
AFモード	AF制御自動切り替え(A)	63
測光方式	14分割ハニカムパターン測光	71
露出補正値	0.0	74
フラッシュ調光補正値	0.0	79、80
巻き上げ	1コマ巻き上げ	―――
セルフタイマー	(作動前/作動中に関係なく)解除	120
ワイヤレスフラッシュ設定	解除	96
後幕シンクロ設定	解除	89、90
オートフォーカス優先 または レリーズ優先	オートフォーカス優先(AFP)	70

以下の設定はプログラムセットボタンを押しても変更されません。
- 内蔵フラッシュの赤目軽減プリ発光の有/無(38ページ参照)
- 撮影データメモリー機能のON/OFF(108、109ページ参照)
- フィルム感度(119ページ参照)
- ブラケット/フラッシュブラケットのブラケット段数、撮影枚数(77、79ページ参照)
- 多重露光の多重露光回数(81、82ページ参照)

☞プログラムセットボタンの機能とは別に、撮影者の撮影目的や撮影意図に応じたカメラの状態をカメラに登録し、ワンタッチで呼び出すことができます。詳しくは本書99ページをご覧ください。

このカメラと組み合わせて使えるもの

※このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計製造管理されているレンズおよびアクセサリーをお使いください。

レンズ

◆すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。それ以外のレンズ（MDレンズやMCレンズなど）はご使用になれません。

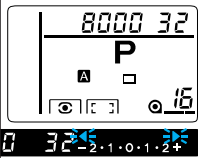
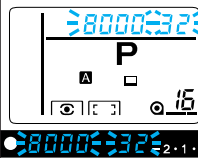
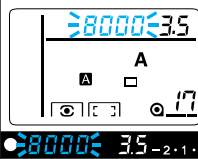
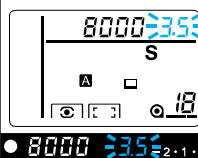
◆AFズームXiレンズ、AFパワーズームレンズをご使用の場合、アイスタートスイッチがONのときはカメラを構えてレンズのズームリングを手前に引いて離すと、アイスタートスイッチがOFFのときはズームリングを手前に引いたままシャッターボタンを半押しして離すと、その時のレンズの焦点距離がボディ表示部とファインダー表示部に表示されます。

フラッシュ

◆ベクティスフラッシュSF-1、プログラムフラッシュ5400HS、Xiシリーズフラッシュ（5400Xi、3500Xi、2000Xi）および iシリーズフラッシュ（5200i、3200i、2000i）は、そのままご使用になれます。
この場合、フラッシュの電源をONにすると必ず発光します（カスタム設定で、＜Pモード時・フラッシュの電源がONで自動発光＞に設定を変更できます）。

◆AFシリーズのフラッシュ（4000AF、2800AF、1800AF、マクロフラッシュ1200AF）をご使用になる場合は、別売のフラッシュシューアダプターFS-1100を使ってカメラに取り付けてください。この場合、フラッシュの電源をONにすると必ず発光します。またフラッシュのAF補助光は発光しません。

◆AFシリーズ以前のフラッシュ（オートエレクトロフラッシュなど）は、シューに取り付けても発光しません。シンクロコードでカメラのシンクロターミナルに接続すればお使いいただけます。

その他

◆以下のものは、このカメラと組み合わせての使用はできません。
- インテリジェントカード
- コントロールグリップCG-1000
- データレシーバーDR-1000
- 縦位置コントロールグリップVC-507

◆クローズアップディフューザーCD-1000をご使用になるときは、事前に当社サービスセンター・サービスステーションにご相談ください。

測光値表示が点滅したときは(露出の警告)

そのまま撮影すると適正露出が得られないときは、測光値表示が点滅してお知らせします。点滅しないように設定を変えてください。

	表示部	原因	処置
P/A/S/M		被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を超えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。 被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
P		被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を超えています。	
P_A/A		被写体が明るすぎる、または暗すぎて、シャッター速度の範囲を超えています。	シャッター速度が点滅しないように、絞り値を変更します。
P_S/S		被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値の範囲を超えています。	絞り値が点滅しないように、シャッター速度を変更します。

●上記の4つの警告表示のうち、上の2つは撮影シーンセレクター選択時にも表示されることがあります。

あれっ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

症状	点検項目
メインスイッチをONにしても、ボディ表示部に何も表示されない。	電池が消耗していませんか。
ピントが合わない。	ボディ表示部にM.FOCUSが表示されていませんか。
	オートフォーカスの苦手な被写体（30ページ参照）を撮ろうとしていませんか。
	被写体に近づきすぎていませんか。
シャッターが切れない。	レンズが正しく取り付けられていますか。
	カメラを天体望遠鏡などに取り付けていませんか。
前後のダイヤルが効かない	カスタム設定で、アイスタートスイッチの機能を【ダイヤル機能無効←→有効の切り替え】に設定していませんか。
ボディ表示部に ArEA が表示される。	ボディ表示部に DATA が表示されていませんか（撮影データのメモリーが一杯です）。
ボディ表示部に Err が表示される。	

※極めてまれに、カメラの機能が正常に動作しなくなったり、表示が正しく現れなくなることがあります。その場合は、電池を一度取り出し、再度入れ直してください。

処置	参照ページ
新しい電池と交換してください。	13
フォーカスモード（AF/M）ボタンを押してオートフォーカスにしてください。	31
手動によるピント合わせ、または、フォーカスロックを行なってください。	27、28、31
レンズの最近接撮影距離より離れて撮影してください。（最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。）	———
正しく取り付けてください。	14
天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。	———
①カスタム設定はそのままで、アイスタートスイッチをOFF位置にするか、または、②カスタム設定で、アイスタートスイッチの機能を【アイスタート機能のON←→OFF切り替え】に設定してください。	102〜105
撮影データを読み出して、すべて記録ノート等に書き写してから、撮影データを消去してください。古い撮影データに上書きしてもかまわない場合は、そのままシャッターを切ってください。	106〜113
電池を一度取り出し、再度入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して表示される場合は、裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。	

取り扱い上の注意

電池について

●電池の性能は低温になるほど低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

●新品電池を初めてお使いのとき、それまでその電池が保管されていた状況によっては、電池の容量チェックの際に が点灯することがあります。その場合、いったんメインスイッチをLOCKにし再度ONにする操作を数回繰り返すと容量が回復します。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は－20℃～50℃です。

●直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところにカメラを放置しないでください。

●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度のなじませてからカメラをとりだしてください。

その他

●カメラは精密機械ですので、取り扱いには注意してください。特に、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。

●カメラに強い衝撃を与えないでください。

●バッグなどに入れて持ち運ぶときは、メインスイッチをLOCK位置にしてください。

●このカメラは防水・防滴性能は備えていません。

- 濡れた手で電池の出し入れ、フィルムの出し入れ、カメラの操作をしないでください。故障の原因になります。
- 海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 万一水などがかかった場合は、ただちに使用を中止して、裏表紙記載の当社サービス センター・サービスステーションにお問い合わせください。

手入れと保管の仕方

手入れのしかた

●カメラボディやレンズの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷を付けますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
●レンズ面を清掃するときは、レンズブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くようにして軽く拭いてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
●シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。
●カメラ内部のミラーは、多少ほこりが付いていても露出には影響しません。
●シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
●レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

●使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。
●長期間使用しないときは、電池を抜いてください。
●保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。
●防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
●保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切るなどの操作をしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

●前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。
●万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

●本製品の補修用性能部品は、生産終了後10年間を目安に保有しています。
●アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

この使用説明書は1997年5月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏表紙に記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

主な性能

項目	性能
オートフォーカス	方式：TTL位相差検出方式　検出素子：CCDラインセンサー　検出範囲：EV－1～19（ISO100）　3モードAF制御切り替え（自動切り替え（オート）／コンティニュアスAF／ワンショットAF）　動体予測フォーカス制御
AF補助光	低輝度、低コントラスト時自動発光　作動距離範囲：0.7～7メートル　プログラムフラッシュ装着時、必要に応じてフラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え
測光方式	TTL開放測光　多分割測光（測光値ファジィ演算）　中央重点的平均測光　スポット測光　受光素子：14分割ハニカムパターンSPC（シリコンフォトセル）　フラッシュ光調光用SPC　測光範囲：EV0～20　スポット測光時はEV3～20（ISO100、F1.4レンズ使用時）
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　シャッター速度：1/8000～30秒、バルブ（露出時間はカメラの電池寿命により制限）　フラッシュ同調最高速度：1/200秒　ハイスピードシンクロ機能使用時は1/8000秒　ワイヤレスフラッシュ撮影時は1/60秒　1/90秒より低速側で後幕シンクロ対応
内蔵フラッシュ	ガイドナンバー：14～20（ISO100・m）　照射角：焦点距離24㎜～80㎜をカバー　充電時間：約3秒（カメラと電源を共有）　手動アップ／ダウン　赤目軽減用プリ発光可能　プログラムフラッシュとの組み合わせでワイヤレスフラッシュの制御可能　カスタム設定によるズームワイド端固定で、マクロ50㎜使用時 撮影倍率1/2倍までフラッシュ撮影可能
撮影シーンセレクター	ポートレート　記念撮影・風景　クローズアップ　スポーツ　夜景ポートレート・夜景
パノラマ撮影	途中切り替え可能
ファインダー	透過型液晶表示付き全面アキュートマット　視野率縦92%×横94%　倍率0.75倍（50㎜レンズ、∞位置）　視度－1ディオプトリー　視度調整機構（－2.5～＋0.5ディオプトリー）内蔵　アイポイント：22.9㎜（接眼枠より18.7㎜）

フォーカシングスクリーン	全面アキュートマット(G型)　サービスセンター・サービスステーションにて方眼マット(L型)または目盛線式(S型)に交換可能
フィルム給送	オートローディング(1コマ目まで自動送り)　1コマ撮影／連続撮影(3コマ/秒)／多重露光(2コマ〜最大9コマ)／オートブラケット(またはフラッシュブラケット)／セルフタイマー切り替え可能　自動巻き戻し　途中巻き戻し可能　36枚撮りフィルム使用時の巻き戻し時間：通常時 約23秒　高速巻き戻し時約12秒
フィルム感度	DXコード付きフィルム使用時は自動設定(ISO25〜5000)手動設定可能(ISO6〜6400、1/3ステップ)　手動設定したときは、次回同一DXコードの場合、手動設定した値を保存

撮影可能本数

温度	20℃	−20℃
フラッシュ使用しない	約60本	約20本
フラッシュ50%使用	約22本	約9本
フラッシュ100%使用	約13本	約4本

試験条件　24枚撮りフィルム、新品電池使用、アイスタートスイッチON、AFズーム24-85㎜／F3.5-4.5使用、レンズを1コマごとに無限遠から最近接まで3回往復させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後レリーズ

※36枚撮りフィルムの場合は、上記の2／3程度の本数になります。

※実際に撮影しなくてもカメラを操作することで電池は消耗します。

大きさ	153.5(幅)×107(高さ)×71.5(奥行き)㎜
重さ	640㌘(電池別、クォーツデート用電池含む)

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿	〒160	東京都新宿区新宿3-17-5（カワセビル3階）	TEL（03）3356-6281㈹
大　阪	〒530	大阪市北区梅田1-11（大阪駅前第4ビル7階）	TEL　（06）341-6501㈹

サービスステーション

札　幌	〒060	札幌市北区北7条西1-1-5（丸増ビルNo.18）	TEL（011）737-1212㈹
仙　台	〒980	仙台市青葉区二日町14-15（アミ・グランデ二日町ビル3階）	TEL（022）261-3431㈹
新　潟	〒950	新潟市鐙西1-2-1	TEL（025）244-7188㈹
横　浜	〒231	横浜市中区尾上町4-47（大和横浜ビル3階）	TEL（045）663-1445㈹
静　岡	〒420	静岡市御幸町5-9（静岡FSビル7階）	TEL（054）251-7301㈹
名古屋	〒460	名古屋市中区丸の内1-4-12（アレックスビル4階）	TEL（052）239-1251㈹
金　沢	〒921	金沢市玉鉾町3-9	TEL（0762）91-1121㈹
広　島	〒730	広島市中区小町3-25（住金物産広島ビル1階）	TEL（082）247-3978㈹
高　松	〒760	高松市今里町1-17-20	TEL（0878）35-5568㈹
福　岡	〒812	福岡市博多区博多駅東2-2-2（博多東ハニービル1階）	TEL（092）441-6121㈹

営業時間 ··············新宿・大阪　10:00〜18:00（日・祝日定休）
その他　9:00〜17:30（土・日・祝日定休）

9223-2152-61（P9706-A706）